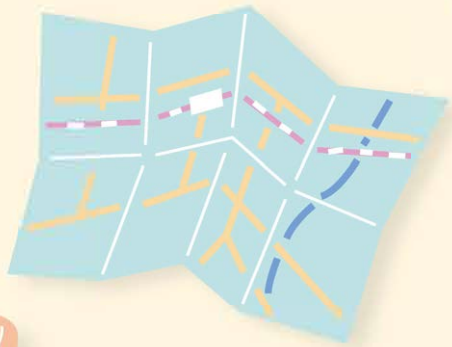


社会科 授業力アップへの道

アイデア集

監修：國學院大學教授
安野　功

本資料は、一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り、
配布を許可されているものです。

日文の教科書情報
詳しくはWebへ!
日文 検索

※本冊子掲載 QR コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
※QR コードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
令和２年（2020年）度版小学校社会科内容解説資料として扱われます。

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

もくじ

はじめに……安野　功　1
概要説明……神尾　健彦，森　進一，澤田　純二，小須田哲史　2

その１　地図・地球儀の巻

地図は，社会科を学ぶ上での大事な相棒～３年生から始める！地図に親しむ活動～……山本　拓郎　4
ちょっとの工夫で地図・地図帳，大活躍！……仲　純平　6
社会科だけじゃない！～地図や地図帳を日常的に使う教室環境や取り組み～……岩谷　大希　8

その２　教材の巻

ズームイン！ズームアウト！さぁ何が見えてくるかな……山賀　愛　10
キャラクター，作る！読み取る！追加する！そして生かす！……北形　好子　12
牛乳１本から町の商店が見えてくる～商店の学習の進め方～……恒川　徹　14
「学びの足あと」で学習をふり返ろう！～国際交流がさかんな東京都八王子市の学習を通して～……渡辺　大介　16

その３　ICT の巻

QR コードを活用した学習方法～自ら選択する活動を設定し，主体的に取り組める ICT 活用～……小林真理子　18
教材研究のアイデア～ SNS を活用した情報収集と資料作成～……生沼　夏郎　20
一人１台端末 (タブレット) を活用した学習活動～３年「店で働く人びとの仕事」を例として～……22
白黒写真をカラー化した写真資料の活用～昔と今の「つながり」を感じる社会科学習～……24

その４　学習展開の巻

教科書を活用した教材研究の秘訣！～５年「低地に住む岐阜県海津市の人びとのくらし」を例に～……宮田　諭志　26
既習を生かした学び～食料生産 (稲作と水産業) ～……桑島　孝博　28
思考を見える化した学習展開～ポジショニングマップ・先行オーガナイザを活用して～……寺本　大一　30
学習展開プラス……桑島　孝博　寺本　大一　32

はじめに

子どもたちと一緒に，社会科らしい授業づくりを楽しんでみませんか。

次の四つのアイデアをヒントにして。これが，本書を手に取ってくださった先生方への願いであり，私からの巻頭のメッセージです。

●アイデアその１　地図・地球儀の巻

子どもたちが“地図や地球儀に親しみ，自在に使いこなす”。これぞ社会科という感じがしませんか。そのはじめの一歩は『日々のちょっとした工夫』です。

●アイデアその２　教材の巻

社会科は“教材が命”。子どもがワクワクする社会科の授業を支えているのは，教材に対する教師の熱い想いと子どもをひきつけ引き込む教師のとっておきの仕掛けです。その『教材の引き出し』を少しずつ増やしていきたいものです。

●アイデアその３　ICT の巻

社会科では，よりよい社会の形成に参画する資質・能力の基礎を育てることが求められています。その喫緊の課題が ICT を活用して未知の問題を創造的に解決していく力を育てることです。タブレット端末，SNS，QR コードなどを活用した授業づくりは『社会科新時代の扉を開く未知への挑戦』，若い先生方にこそ切り拓いてほしい社会科の新たな実践の姿です。

●アイデアその４　学習展開の巻

我の「？」から我々の「？」⇒みんなの「？」へと問いがつながり，深まり，みんなが自分ごととしてそれらの問いを追究・解決していく。そんな『自分発⇒みんな経由⇒自分行き』の問題解決的な学習こそが，今求められている社会科の主体的，対話的で深い学びの目指す姿，社会科は苦手と思い込んでいる先生方にこそチャレンジしてほしい社会科の学習展開です。この『子どもが主役の問題解決』へと授業を改善していく糸口となるのが生活経験や既習を最大限に生かした単元や本時への導入，未知の事実から問いを導き出す教材との出会い，思考の可視化など学習展開の様々な工夫です。

得意なことや苦手なことは人それぞれです。本書に貴重な実践やアイデアをお寄せいただいた先生方もはじめから社会科が得意だったわけではありません。「社会科は難しい」と困っていたからこそ“失敗を恐れず新たな授業づくりにチャレンジし，「七転び八起き」で社会科の腕を磨いてきた”のです。

あなたも本書をヒントに，社会科らしい授業づくりに挑戦してみませんか。

國學院大學教授　安野　功

その１　地図・地球儀の巻について（P4~P9）

青梅市立今井小学校　校長　神尾　健彦

社会科を専門教科としてきた者として，「社会科を専門としていない先生方にも，教科書を読んで理解させて教師が説明してまとめさせるだけの授業ではなく，児童が問いをもち解決するために調べて考え主体的に学ぶ授業をしてほしい」という願いがあります。そして児童の主体的な学びのためには，児童が疑問に思ったことに対して自分で調べることができるように情報活用能力を身に付けさせることが不可欠です。

地図や地球儀は，児童にとって社会生活の様子や地域の特色，自然環境との関わりを表している最も身近な資料であり，様々な情報が豊富に盛り込まれている宝庫です。学習の中で地図を用いることは，社会科学習の求める学び方や調べ方の幅を広げ，情報活用能力を育むことができるものです。また，地図の活用は児童の今後の生活に有効に生かせる知識と技能であり，生活に深く関わってきます。

小学３年生から配布されることとなった地図帳は義務教育の中で最も長く使用される教科用図書です。しかしながら，授業の中で十分に活用されていない状況があります。６年生の地図帳の中がきれいなままであったり，１年間ほとんど開かれない状況が見受けられたりします。そこで社会科を専門としていない先生にも存分に地図帳をはじめとした「地図・地球儀」を活用してほしいと考えました。３年生で地図とどのように出合わせるのか，授業の中でどのような場面でどのように活用できるのか，日常的に地図に親しめるような工夫など，様々なアイデアを多くの先生にお知らせし，児童の主体的な学習，情報活用能力向上の一助となっていただけることを願っています。

その２　教材の巻について（P10～17）

江戸川区立南小岩小学校　校長　森　進一

社会科が先生方にとって教えにくい教科ナンバーワンであるのはなぜか。先生方自身が，社会科というと人物や業績などを暗記することが多いというイメージをもっているからではないでしょうか。

そこで，人物や社会的事象を教材化するときに，先生方がドキドキ感をもつとともに，先生自身もやってみたい，と思える簡単で誰にでも行えることをコンセプトに研究してきました。その中で見方・考え方を育てることや，みんなの問いにしていくということを大切に教材開発を行いました。

「ズームイン！ズームアウト！さぁ何が見えてくるかな」では，教材へどのように子どもたちを引き付け，引き込むのかが提案されています。写真の見方といった情報活用能力を高め，一人ひとりの問いを大切にしながら学習問題を立てる実践です。

「キャラクター，作る！読み取る！追加する！そして生かす！」では，日本各地にあるご当地キャラクターの活用法を提案しています。キャラクターを単元の導入やまとめで効果的に活用することや，学年間で系統立てて指導する実践です。

「牛乳１本から町の商店が見えてくる～商店の学習の進め方～」では，牛乳の陳列方法を活用することで，消費者や販売者，生産者など，人びとの関わり方が見える教材を提案しています。賞味期限や消費期限など，SDGs にもつなげられる実践です。

「「学びの足あと」で学習をふり返ろう！～国際交流がさかんな東京都八王子市の学習を通して～」では，４年生の単元でも指導が難しいとされている国際交流単元について，授業デザインを提案しています。ふり返りを大切にする単元構成をすることで，自己調整力を高められることを提案している実践です。

その３　ICT の巻について（P18～25）

江東区立八名川小学校　校長　澤田　純二

これからの社会科は，変化の激しい社会の中で持続可能な社会を創造していく人材の育成が求められます。そこで，授業で求められるのが受け継がれていく社会事象と最新の社会事象の情報です。そのため，教材と学習活動を一つに考えた情報活用を中心に取り組みました。

「「QR コード」を活用した学習方法～自ら選択する活動を設定し，主体的に取り組める ICT 活用～」では，見せたい資料，アンケート，テーマや児童の考え等の QR コードを作成します。これまでのように資料を小出しで授業時間ごとや学習活動ごとに出していくと主体的，対話的な深い学びができにくかったと思います。QR コードを活用することで，個別最適な学びにも対応できます。

「「SNS」を活用した情報収集と資料作成」では，最新の情報が入手しやすい「SNS」の活用を考えました。「今の社会がどう動いているか」についても触れながら学習が進められます。公的機関については，フォローしていれば情報が発信されてくるので，検索しなくても情報を得やすいという利点があります。

「一人１台端末を活用した学習活動～３年「店で働く人びとの仕事」を例として～」では，これまでは地図とボードを持っていって調べたり，教師が地図を拡大し，そこに写真を印刷したものを貼り付けたりしていましたが，タブレットなどの端末を活用することで，それを自動的にそして簡便にできます。

「白黒写真をカラー化した写真資料の活用～昔と今の「つながり」を感じる社会科学習～」では，昔の白黒写真を AI によりカラー化して児童に示すことにより，社会事象が実感を伴って捉えやすくなります。児童にとっては具体的で感動を伴うものとなります。

その４　学習展開の巻について（P26～P32）

東大和市立第九小学校　校長　小須田哲史

「社会科の授業が苦手」「授業の進め方がよくわからない」という先生方の声をときどき聞きます。社会科というと暗記というイメージをもっている先生が少なくありません。教師が「教える」という授業観に縛られると，「教え込み」の授業になり，子どもは「覚える」ことに意識が向きがちです。教材研究を事前に行った上で，押さえるべき学習内容を教師が理解し，その学習で身に付けさせたい力（知識及び技能，思考力・判断力・表現力，学びに向かう力）を明確にして，教師が子どもと一緒に考えようとする姿勢で授業に臨むとよいでしょう。

では，社会科の授業でどのような学習展開が求められるのでしょうか。大切にしたいのは，子どもが問題を捉え自分ごととして「考える」ことです。自身の社会科の授業が問題解決的な学習展開になっているか，改めて見直してみてください。

各内容には，問題解決的な学習の展開につながるヒントが散りばめられています。

「教科書を活用した教材研究」では，教科書に記載されている写真や図，本文に示されている「事実」から「問い」をどのようにもたせるか，「低地に住む岐阜県海津市の人びとのくらし」を事例に，教材研究の仕方を紹介しています。

「既習を生かした学び」では，食料生産（稲作と水産業），歴史学習（国づくり）を事例に，共通の視点で多角的に考えることを促す，既習の学びを生かした追究のさせ方を紹介しています。

「思考を見える化した学習展開」では，問題解決的な学習において，子どもの思考が活発化するよう，それを視覚化する支援について紹介しています。子どもの思考を支援する工夫として，「ポジショニング・マップ」「先行オーガナイザ」を取り上げています。

地図は，社会科を学ぶ上での大事な相棒
～３年生から始める！地図に親しむ活動～

中野区立令和小学校　山本　拓郎

３年生から始まる社会科の学習。学習内容を学んでいく手がかりになるのは，「調査活動」「地図帳等の資料の活用」の大きく二つです。３年生は身近な地域について学ぶため，「調査活動」は実際に見に行ったり，人の話を聞いたりするので指導するイメージがわきやすい活動です。一方，「地図帳等の資料の活用」は，指導のイメージがもちにくいという話をよく聞きます。ここでは，初めて地図を手にする児童も楽しく地図を学べる方法についてご紹介します。

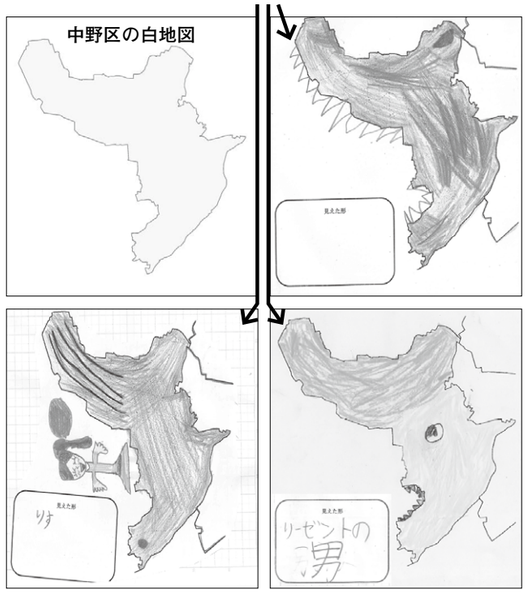
1 「何に見える？」から始まる市区町村の学習

３年生になったらまず指導したいのは「自分たちの住んでいる市区町村」という概念です。生活科では，「自分たちの住んでいるまちに愛着をもつこと」を学習しました。しかし，児童の生活圏である「まち」の概念と行政上の区分である「自分たちの住んでいる市区町村」の概念は必ずしも合致しません。そこで，３年生の社会科開きで「自分たちの住んでいる市区町村」の地図を俯瞰する活動を行いました。地図を見て，自分の通っている小学校の位置や買い物，遊びに行ったところを見つけ，生活経験と地図の情報を結び付けて考えました。

しかし，市区町村の学習を行う際には，こうした活動に加え，市区町村の形を覚えておく必要があります。形がわかると，区内の大体の場所がどのあたりにあるのかイメージをもつことができます。そこで，自分の住んでいる市区町村が何に見えるのかを考える活動を取り入れます。千葉県 PR マスコットキャラクターチーバくんのように，自分たちの住んでいる区が何の形が何にみえるかを考えました。児童らは，様々なアイデアを思いつき，イラストにまとめました。市区町村の学習を進めていくうちに「今調べているのは，リーゼントの頭のほうだね！」と言うと，児童の頭の中に自然と市区町村の地図が思い浮かぶことができるようになりました。

千葉県許諾第 A2720-1 号

自分たちの住んでいる自治体でやってみると……

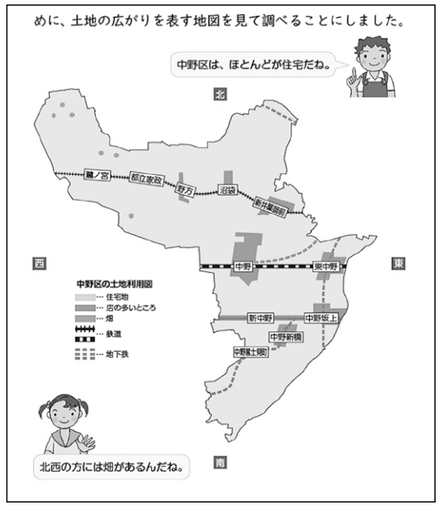


2 グーグルマップを使って，地図の読み取り名人に！

少しずつ地域のことがわかってきたとはいえ，まだまだ市区町村に対する認識が十分ではない３年生。そこで，教室にあるディスプレイで「グーグルマップ」を活用すると，子どもたちの地域に対するイメージがより具体的になってきます。ここでは，ちょっとした使い方をいくつかご紹介します。

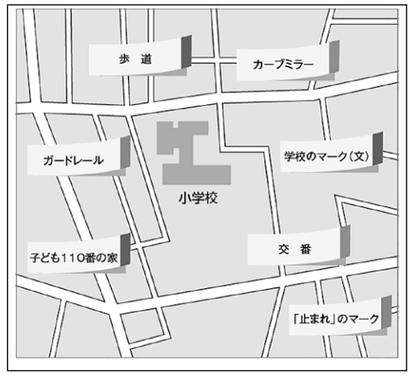
例えば，「生産単元」において区内の農家について学習をしました。副読本上では，区内の農家の位置が地図上に示されていました。しかし，私たちの学校からは遠くてなかなかイメージがわきません。そこで，「グーグルマップ」を活用して，区内の農家の位置を航空写真や「ストリートビュー」を活用することで実際の様子をつかむことができます。

こうした紙面上の地図と実際の場所を照らし合わせる活動をくり返し行っていくことで，地図の見方がわかるようになります。そして，学習が進むにつれて地図から読み取る力が高まり，より多くの情報を得ることができます。



また，白地図に調べたことをまとめるような調査活動をする時にも「グーグルストリートビュー」を効果的に活用することもできます。

「安全なくらしを守る」では，地域にある安全を守るためにどんな設備があるか調べる活動があります。当時は，コロナ禍で見学が難しかったため，「グーグルストリートビュー」を活用してバーチャル地域散歩を実施しました。全員でディスプレイを見ながら，ミラーや標識を確認していきました。白地図に落とし込んでいく中で，交差点を中心に 40 か所近く，私たちの安全を守る設備があることがわかりました。



もちろん外へ実際に出かけ，見学することのよさはあります。今回は，ディスプレイを見てみんなで確認するという活動を通して，教師側が意図したことを焦点化しやすいという利点がありました。地域の見方や調査方法を指導するのに効果的でした。

見学等の調査活動と組み合わせて「グーグルストリートビュー」を使って地域の様子を確かめるような活動は，場所や時間の制約を超えることができます。場面に合わせて上手に使い分けることで，白地図に調べたことをまとめる際，空間的に自分の住んでいる市区町村をとらえやすくさせることができます。

3 終わりに

地図は社会科を学ぶ上での大事な相棒です。小学校４年間の学習の中で児童らは，様々な種類の地図に出合います。だからこそ，社会科をスタートする３年生から地図に親しむ活動を取り入れていくことが大切です。

３年生で実際に調査したことや資料から読み取った内容を，地図上と結び付ける活動に取り込んでいくことで，地図から情報を読み取る力を養うことができます。たとえ４年生以降に学ぶ自分の住んでいる地域から遠く離れた場所についての学習であっても，３年生で地図と親しんでいれば，必要な情報を読み取ったり，社会的事象を空間的に捉えたりすることができるようになります。是非，皆さんも地図を生かした学習を３年生から積極的に取り入れてみてください。

ちょっとの工夫で地図・地図帳，大活躍！

練馬区立石神井東小学校　仲　純平

1　3年生

○わたしたちのすんでいるところ

単元の学習に入る前や導入で，学校から児童の自宅（児童の自宅から学校）までの地図を描く活動を取り入れてみましょう。初めは，ほとんどの児童が道のりを話すことはできても地図にはなりません。単元を通して，地図帳や市区町村の地図，学区域の白地図などを活用して学習することで，地図が描けるようになります。方位，土地の高低（坂道），土地利用（公共施設や店，目印となる建物）など，地図に必要な情報がわかるようになるからです。教師だけでなく，児童自身が成長を実感することができます。

○市のようすとくらしのうつりかわり

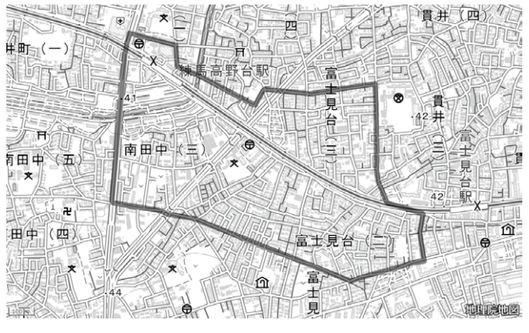
様々な時代や時期の各種地図（交通，土地利用など）が資料として必要で準備が大変，児童に変化を読み取らせることが難しいと感じる単元ではないでしょうか。そこで，地図をレイヤー化してはどうでしょうか。各種地図をラミネートシートに印刷したりプラ板に書き写したりします（同じ大きさになるように調整します）。一枚一枚を資料として調べることができますが，地図どうしを重ねて調べることで効果を高めることができます。特に，交通の様子や土地利用の様子の変化がわかりやすくなります。

○航空写真を活用して空間認識を高める

３年生の市区町村の様子の学習では，副読本の地図や地方自治体が作成した地図等を使用して授業を行っている場合が多いのではないでしょうか。その際，社会科を学習し始めたばかりの児童が，土地の様子やまちの様子を地図からだけではなかなかイメージすることができないという課題があります。

そこで，航空写真を用いることで土地の様子や主な道路，鉄道，公共施設などを捉えやすくすることができます。ICT を活用し（タブレット PC の地図など），プロジェクターなどで拡大したり書き込んだりしながら具体的なイメージをもち，そこから地図に発展させていくことで３年生の児童も市区町村の様子を捉えやすくなります。拡大したものをポスター印刷して掲示しておくと効果が高まります。一人１台端末を活用して，教師が児童に見せたり児童が自分で調べたりスクリーンショットを残したりコピー＆ペーストしたりすることで活用の幅がさらに広がります。

また，学区域の白地図を作成し，航空写真と合わせて活用することもできます。国土地理院サイトの「地理院地図　https://maps.gsi.go.jp/ 」を使用すると，学区域の白地図を簡単に作成することができます。



2　4年生

○47都道府県

47都道府県を児童に身に付けさせようとすると，最初は意欲的なのですが，途中で興味や関心が薄れてしまうことがあります。そこで「都道府県クイズ」を取り入れて，児童が楽しみながら主体的に学習し，位置と名称を身に付けることができるようします。

まず，47都道府県に慣れるために形当てクイズをします。地図帳を見ながら，教師が提示した形と同じ形の都道府県を見つけていきます。これは，いつでもくり返しできます。次に，都道府県紹介クイズです。自分の知っている都道府県を友達に紹介する活動です。都道府県名をほとんど知らない児童にとっても，行ったことがあったり祖父母など親戚が住んでいたりする都道府県を紹介することは意欲的に行うことができます。教師が一つの県を例示して児童に取り入れてほしい項目を示すことで，基礎的な内容をおさえることができます。児童は，地図帳を使って方位や位置を確認したり統計資料で調べたりしてクイズをつくります。

児童の作品例 A
①東京都から見て南西のところにあります。
②太平洋に面しています。
③日本一高い山があります。

※解答・静岡県

児童の作品例 B
①東北地方の青森県から中国地方の山口県まで行くときに絶対に通る県です。
②日本海と瀬戸内海に面しています。
③国宝のお城があります。

※解答・兵庫県

児童が慣れてきたら，基礎的な内容だけでなく発展させていくと，興味・関心をもち続けることができます。社会科の学習始めの短い時間や朝の会などで継続的に行うことで，身に付けることができるようになります。

3　5年生

○主題図

主題図とは，「特定の主題について詳しく表現した地図」（小学館「日本大百科全書」）のことです。テレビの天気予報図やハザードマップなどが身近なところで使われている主題図です。

５年生では，様々な主題図が教科書に資料として掲載されています。それらを児童に提示する際にプレゼンテーションソフトを活用します。アニメーションのような動きをつけることで，様子や変化などに，より注目させることができます。例えば，日本の地形と気候の雨温図や季節風，日本の食料生産の産地や水産業の海流の様子などで活用できます。

4　6年生

歴史学習ではなかなか地図帳を使う機会がないのではないでしょうか。しかし，地図帳には昔の地図など，資料として使えるものが多く掲載されています。例えば，ペリー来航から開国，明治維新の学習で，地図を比べることで問いを生み学習問題を見出すことができます。

1843年の江戸の地図と，地図帳にある 1856年の江戸の地図を比べてみると，江戸の地図にはない「台場」があることに気付きます。海に砲台が置ける島をつくるということは，外国から攻められる心配があったのではないかという予想をもとに，ペリー来航に気付きます。ペリーが一回目の来航から 1年以内に海の中に島をつくるほど，江戸幕府にとっては大変なことだったということに気付き，学習問題をつくることができます。

また，アプリケーション「大江戸今昔めぐり」では，江戸の地図と現在の地図や航空写真を重ねて表示することができます。藩邸があった場所や江戸城の周りの現在の様子などを調べることができます。

社会科だけじゃない！
～地図や地図帳を日常的に使う教室環境や取り組み～

練馬区立大泉小学校　岩谷　大希

1　地図の掲示方法の工夫１

日本地図や世界地図を掲示している教室は多くあると思いますが，教室の後ろや壁の高いところなどすぐに活用しづらい場所に掲示されていることがあります。

そこで下の写真のように黒板の上部に丸めて固定し，必要なときにいつでも広げて使えるようにする方法をおすすめします。

使い方は，

①地図に裏打ちをする。

②地図の上部をテープや画びょうで黒板に固定する。

③地図を丸めて目玉クリップ等で端をおさえる。（図１）

④使用する際にはクリップを外せばすぐに広げることができる。（図２）

図１

図２

地名が出てきた際は，必ず確認するようにします。社会科だけでなく，他教科や日常の話の中でも地名が出てきたときは確認するように意識することが大切です。

2　地図の掲示方法の工夫２

もう一つの掲示方法の工夫として，「書き込みができる地図を児童の目の高さに貼る」ことが挙げられます。鉛筆や蛍光ペンで文字や印をかき，消すことができる地図を児童の目の高さに掲示し，授業などで扱った地名に印をつけていきます。児童らは常にそれを目にすることになり，自然と地図に親しむことになります。

教室の掲示板はスペースが限られていて地図を貼れない場合は窓を活用してはいかがでしょうか。

窓も児童の目の高さにあり，教室の明るさにさえ気をつければ地図を掲示するのによいスペースが確保できます。地図自体がシールになっているものや，薄くてある程度光を通すタイプの地図もありますので，是非活用してみてください。

3　学習意欲を高める地図帳の活用

次に，地図帳の活用です。まず，地図帳は社会科の授業がある日だけ用意するのではなく，常に机の中にしまっておくようにします。そして，児童が気になったときにはいつでも開いて調べてよいことを指導しましょう。知らない言葉が出てきたら国語辞典で調べるように，地名が出てきたら地図帳で位置を調べることが自然とできるようになるとよいですね。

学習の中で出てきた地名は，赤で丸をつけるなど目印をつけるとともに，付箋に都道府県名・地名と事柄を書き，そのページに貼るようにします。学習を重ねることで付箋がどんどん増えていくので，児童は調べることに喜びを感じ，すすんで調べるようになります。加えて，地図帳にインデックスをつけることで，必要なページがすぐに開けるようになりますし，地図帳を見れば学習のふり返りもできるという効果もあります。地名と事柄を書き込むためには長めの付箋を用意することをおすすめします。

4　物語の舞台を調べよう

国語科などの学習で教科書に載っている物語の舞台や説明文に出てくる施設がどこにあるのかを調べる活動も日常的に取り入れていきたい活動です。

具体的な地名がわかる場合はその都道府県を，「東北地方」など曖昧な場合は「東北地方にはどんな県があるのだろう」などその地域の都道府県名とその位置を調べていきます。

プラスワンとして，気候や地形などの自然の様子や名所・特産品，方言などの文化についても調べられるとその地域の理解，そして作品の理解にもつながっていくと考えられます。

教室掲示用地図や地図帳がすぐに使いやすい場所にあればこういった活用方法がどんどん広がっていくので，是非みなさんも様々な活用方法・場面を見つけて職場の先生方と共有していってください。

（例）ごんぎつねの舞台

場所　　愛知県

有名な物

・自動車　・みかん

・うなぎ　・ういろう

5　「ここに行ったよ！」

様々な形でスピーチを学習に取り入れている先生も多いと思います。そこで，長期休業明けにスピーチをするのもよいと思います。

どこで何をしたのか発表させることで，聞いている児童も様々な地名やその地域の名所，有名な食べ物などを知ることができ，興味・関心をもって地図に親しむことができます。学年の発達段階に応じて，黒板に掲示した地図を見ながらや，個人で地図帳やタブレットを開きながら話を聞かせ，位置を確認するようにしましょう。

6　移動教室や遠足のルートを確認しよう

移動教室や遠足など，学校以外の場所へ出かけるときは地図を活用する絶好の機会です。

目的地の場所はもちろん，どの道（路線）を通っていくのか，途中で乗り継いだり休憩したりする場所はどこなのかも確認しましょう。

確認する際には地図帳や白地図を赤鉛筆などでなぞらせましょう。目的地などは丸で囲んで印をつけたり，シールを貼ったりするのもよいと思います。児童の実態に応じて実物投影機やタブレットを活用し，指導者が例示するとよいでしょう。

隣接する都道府県の位置関係や空間的なつながりをより実感をもって捉えることができます。

7　算数科「長さ」や「広さ」の学習

「cm」や「m」はものさしや巻き尺を使って身近なものの長さを測ることで量感を養うことができますが，「km」の長さを実際に測ることは難しいです。そこで地図サイトを活用しましょう。地図サイトにアクセスし，「学校から○ km」の施設を探します。児童の知っている施設やよく行く施設までの距離を示すことで，「km」の長さの量感を養うことにつながります。

同様に，「広さ」の学習でも地図や地図サイトが活躍します。あらかじめ校庭の広さを把握しておけば，算数の問題や社会科の資料で登場する広さが校庭何個分かで表せます。紙や画面上で並べて表示すれば，視覚的にもわかりやすく広さの比較ができます。

インターネットの検索サイト上にあるフリーの地図もよいですが，自治体によっては地域の地図をホームページに公開しており，縮尺など一定なので比較する際にはそちらがおすすめです。是非ご自分の自治体でも調べてみてください。

ズームイン！ズームアウト！ さぁ何が見えてくるかな

お茶の水女子大学附属小学校　山賀　愛

1　３年生社会科のはじまり

３年生の４月の児童らは，「初めての社会科って，どんなことをするのだろう」とドキドキワクワクして授業を楽しみにしています。単元のスタートは，自分たちに身近な学校の周りのことを調べます。２年生までの生活科と関連付けて，すでに知っていそうな場所の写真を数枚用意し，提示します。「あっ，知っている」「去年行ったよね」など，児童らの既有知識と結び付け，関心を高めることが大切です。その中に，普段通っているけれど意識しないと目に入っていないところもあります。そういった学校から近いけれど意外と知らない場所も入れると，その後の地域学習への探究意欲につながります。

屋上に上がり，いわゆる「鳥の目」（＝地域を俯瞰する）で学校の周りを見て，「ありの目」（＝実際に地域を歩く）で地域を知り，学校の周りはどんなところか，道路や交通量などから交通の様子，坂の勾配など土地の様子，神社など古いものが残る様子，商店など土地の使われ方の様子などの観点で調べておくと，「区のようす」を調べるときにも同じ観点で学習を進めることができます。あまり時間数がかけられないので，２年生で町探検をまとめた地図などを引き継ぎ，活用することも考えられますね。

2　「区のようす」を調べよう

ここからは，「区のようす」を学習していきます。

児童らの行動範囲は，区の広さに比べたら案外狭いものです。そこで，始めに「ここはどこでしょう」と児童らにとって身近ではなさそうな場所の写真を提示します。

Ｔ：ここはどこでしょう。
Ｃ：ハワイじゃない？
Ｃ：沖縄じゃない？ハワイだったらもっと海も見えると思うよ。
Ｃ：灯台みたいなものがある。どこかな。
Ｃ：奥にコンテナを運ぶクレーンみたいなものが写っている。
Ｔ：ここは，品川区の潮風公園です。
Ｃ：えー！！品川区！？
Ｃ：そこなら行ったことある。

と，１枚出すと児童らはどんどんつぶやき始めます。提示する枚数が増えるうちに，自分の住んでいる区だとわかるしかけです。もう一枚，見てみましょう。

Ｃ：新幹線がいっぱい。
Ｃ：ドクターイエローだ。
Ｃ：新幹線の基地だね。

この後，区内の神社や商店街，駅，大使館，区役所の写真を提示したところ，「どこにあるか知りたいから区の地図がほしい」という声が上がり，地図を配布しました。児童らは，車両基地の場所や公園名，地名を頼りに，場所を一致させていきました。

3　写真素材をどうやって集めるか

それではこれらの写真をどのように集めたのか紹介します。

ポイント１　写真を見せることでつかませたいことは何かを明確にする

この単元では，市の地形や土地利用，交通の広がり，区役所など主な公共施設の場所と働き，古くから残る建造物の分布などに着目して，身近な地域や区の様子を捉え，場所による違いを捉えさせたいのです。

この観点が読み取れ，区の特徴を表しているものを中心に何を撮影するか決めます。今回使用した写真（下線）を当てはめると，以下のようになります。

市の地形＝地図の色の境目がわかる坂道
土地利用＝商店街・駅・観光名所
交通＝車両基地・幹線道路（児童らが知っていそうな場所を一緒に写す）
公共施設＝区役所・公園（学校から少し離れた公園）
古くから残る建造物＝神社

区内でも場所による違いを捉えさせたいので，学校の周りだけではなく，区内全域から特徴的な場所を選ぶようにします。

ポイント２　何を一緒に写すか

捉えさせたいものを中心に撮影しますが，１枚の写真の中に，いくつかその場所だとわかるヒントになるものを入れて撮影します。そうすると，提示するときに全て入った写真を１枚提示することや，始めにヒントとなるものだけを見せ，だんだん全体がわかるように提示するなど提示の仕方に変化をもたせることができます。P10 の潮風公園の写真は，始めに椰子の木のような木だけを見せる，灯台だけ見せる，海だけ見せるなどが可能です。駅と商店街を一緒に写すと，この後の学習に生きてきます。

ポイント３　資料を活用する

これまで自分で撮影することを前提に書きましたが，写真資料も活用できます。例えば，地域の図書館や歴史資料館，区のホームページです。区のホームページは，航空写真や区民から集めた写真を掲載している場合もあります。まずは，区のホームページをのぞいてみるのもおすすめです。また，３年生の「区のうつりかわり」の学習は，「区のようす」を学習したことを生かして進めることができます。その際，特徴的な時代の地域の古い写真を集めるのは大変です。おすすめは，学校にある周年冊子（記念誌）を活用することです。周年冊子は，学校ができたころから現在までのことが説明の文章と一緒に載っています。また，学校の歴史なので，児童らも自分たちが通っている場所の昔ということから親近感が湧き関心が高まります。また，「国土地理院」でも古い地図だけではなく，航空写真があります。

何をつかませたいのかを明確にすること，児童らの実態に合わせた場所選びが重要です。関心を高め，主体的に学びに向かいあえる教材にしたいですね。

キャラクター，作る！読み取る！追加する！そして生かす！

清瀬市立清瀬第三小学校　北形　好子

昨今，巷にはいろいろなキャラクターがあふれています。例えば，ご当地キャラクター，キャンペーンのキャラクター，アニメ・漫画のキャラクターなど，数えきれません。街にあふれているキャラクターを社会科の授業で使い，児童らにより楽しくより身近に社会科を感じてもらうことができないかと考えたのが，このアイデアです。

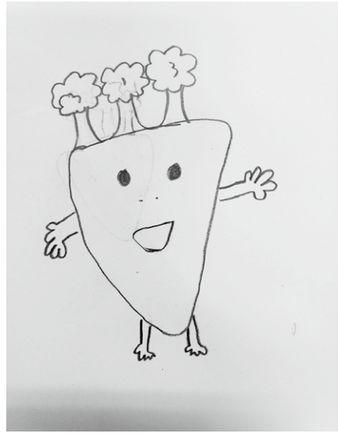
キャラクターを使った学習学年フローチャート

３年　キャラクターを作る。
４年　キャラクターの特徴を読み取る。
５年　キャラクターを追加する。
６年　キャラクターを生かす方法を考える。

1　３年生　わたしたちのまち

調べたことをもとに，私たちが住んでいる町のキャラクターを作ることをめあてとします。単元のまとめの段階で私たちのまちのキャラクターを作ろうという時間をとることを想定しています。

【実践例】
めあて　わたしたちのまちのとくちょうがわかるキャラクターを作ろう。
〇調べてきたことをふり返る。
C：畑がたくさんあって，自然をたくさん見つけることができたよ。
C：商店街にニンジンのことが書いてあるポスターがあったからニンジンが有名なことがわかったよ。
〇調べてきたことをもとに，キャラクターを作る。
C：ニンジンが有名だから，ニンジンのキャラクターにしよう。
C：自然が多いことがわかるようにしよう。
〇キャラクターにキャプションを付ける。どのような特徴を表したキャラクターなのかを必ず書かせるようにする。
〇友達と自分が作ったキャラクターを紹介しあう。
C：市の木を入れているのはいいアイデアだね。
C：キャラクターを友達と合体できそうだね。



ニンジンが有名なので，ニンジンのキャラクターにしました。頭にあるのは市の木で，市役所前の並木を表しています。

ここでは，一人一つ作る活動を想定していますが，クラス全体で一つのキャラクターを作るという活動も可能です。

すでに自分のまちにキャラクターがいる場合も，このキャラクターはこの町のこの部分を表しているね，などと特徴を伝えることで，キャラクターがその土地のものを表していることに気付かせるようにします。

2　４年生　都道府県を調べよう

前述した３年生「わたしたちのまち」と同じように私たちが住んでいる都道府県のキャラクターを作る活動を行います。時間に余裕があれば，興味のある都道府県について調べ，特徴を生かしたキャラクターを作るようにすると，47 都道府県の名称や位置を覚えやすくなるのではないかと考えました。

また，都道府県のキャラクターを調べ，なぜこのような特徴のキャラクターが作られたのかを考える活動も考えられます。単元の最初の段階で行います。

【実践例】
めあて　わたしたちの県のキャラクターは，どのような特徴があるのだろう。
〇自分が住む都道府県のキャラクターをインターネットで調べる。
C：このキャラクターは駅のポスターで見たことがあるな。
C：お祭りにきていたときに見かけたな。
〇自分が住む都道府県のキャラクターが都道府県のどのような特徴があるのかを調べる。
C：県の鳥を表しているよ。
C：県の有名な食べ物も表しているように見えるね。
〇調べたことをまとめ，それ以外にも都道府県の特徴があるか予想する。
C：県の有名なものがすぐに伝わるように，このキャラクターが作られたんだね。
C：県の中には，有名なものがもっとあるんじゃないかな。

このように，都道府県のキャラクターで自分が住む場所について，少しでも興味・関心がもてるようにしていきます。

3　５年生　特色ある土地のくらし（暖かい・寒い・低い・高い土地）

今までの学習を生かして，現在すでにあるキャラクターのほかに，その土地の特色を生かしたキャラクターを新たに考えることで，その土地の PR をできるようにします。単元のまとめの段階で行うことを想定しています。

【実践例】
めあて　今いるキャラクターの友達や家族を作って，よりその土地のよいところが伝わるように PR をしよう。
〇今まで学習したことをふり返る。
C：暖かい土地の気候を生かして，住むところを工夫していたな。
C：農作物も暖かい気候を生かして作られていたよ。
〇実際にいるキャラクターについて調べる。
C：県の鳥をキャラクターにしているね。
〇その土地のことがよりわかるような別のキャラクターを作る。
C：農作物について伝わるようにしてみよう。
C：家の工夫も伝わるようにしたいな。
〇クラス全体で共有し，クラスで組み合わせを考える。
C：この組み合わせだと，暖かい土地の工夫が伝わるのではないかな。

作ったキャラクターにはキャプションを付けて，どんな意図があるかも説明させます。調べた土地のよりよい PR となるようにクラス全体で考えていく活動も考えられます。

台風がよく来る地域なので，台風が来そうになったらみんなに知らせるキャラクターです。

３～５年生までのアイデアでしたが，６年生では例えば政治単元の社会参画で選挙のキャラクターを作り，そのキャラクターを生かす方法はないか考える活動ができるかと思います。

牛乳１本から町の商店が見えてくる
～商店の学習の進め方～

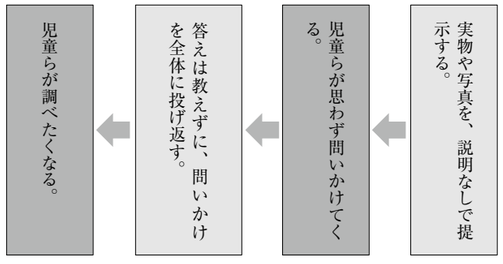
東京学芸大学附属竹早小学校　恒川　徹

1 追究が始まるとき

街角でふと見かけて気になったものを，後になって調べてみたらとても面白い事実が浮かび上がってきた，という経験はあるでしょうか。「もの」の背後に広がる意外な事実やそのつながりがわかってくると，ますます調べてみたくなります。そして，町を見る目が変わってきます。まさに，これが社会科の醍醐味です。

児童が，「不思議だな」「面白そう」と感じる実物や写真を教室に持ち込むだけで，児童は動き出します。児童の好奇心は，学びの原点と言えるでしょう。

特に，導入の場合は，実物や写真はできるだけシンプルなものがよいでしょう。



この流れが生じたら，導入は大成功です。

2 牛乳１本から始まる商店の学習

商店は，実に様々な工夫を凝らして品物を販売しています。しかし，例えば「お店の工夫を見つけよう」というように漠然とした問いかけをすると，子どもたちは確かに楽しそうに調べることも多いのですが，表面的な調べ学習になることが多いと思います。「工夫」という価値への気付きを表す言葉は，やはり児童の口から飛び出すのを待ちたいものです。

夢中になって調べ，話し合っているうちに，誰かが思わず「そうか，こんな工夫をしていたんだ！」と声を上げる。これこそが，学びが深まる瞬間です。

スーパーマーケットの学習を例に考えてみましょう。

まず，１本のパック牛乳を黙って提示します。この牛乳については，近くのコンビニエンスストアにも売っている銘柄を選ぶと後々の展開に生きてきます。

児童らは口々に問いかけてきます。

「それどこで買ったのですか？」「値段は？」「家で買っているのと同じだ」「家は〇〇牛乳だよ。だって安いもん」「〇〇牛乳は高いけどおいしいって，お母さんが言っていた」「賞味期限を見せて！」「消費期限じゃないの？」…。児童らの言葉の端々には，単元の内容につながるキーワードが散りばめられています。このような児童らのやり取りを板書して整理することによって，主に消費者目線の商品に対する多様な視点が浮かび上がります。

このときの「児童を動かす問い」として，次のようなことが考えられます。

・家で買っている牛乳との違いは何か？
・家の人がどんな理由で牛乳を選んでいるか？
・賞味期限と消費期限の違いは？

3 販売者の立場へ

消費者目線から販売者目線へと，徐々に転換していきましょう。

スーパーマーケットの牛乳売り場の棚全体を大きくした写真を提示します。子どもたちはつぶやき始め，やがて対話が生まれます。つぶやきは対話の種です。心を開いて耳を澄ましたいものです。「こんなにたくさんの種類があるんだ」「人それぞれ好みがあるからね」「そんなに味が違うのかな」…。

頃合いを見計らって発問します。

「この中で，一番売れている牛乳はどれでしょう？」

「売れ行き」という直接は「見えないこと」を，写真の中に「見えること」を手掛かりにして考える楽しさ，これはまさに推理の魅力です。

「目の高さのところには人気の商品を置くと聞いたことがある」「一番たくさん置いてある〇〇牛乳じゃないかな」「売れ残っているからたくさんあるのだと思うよ」「売れ残って消費期限が過ぎたら捨てられてしまうんだよ」「だから消費期限が近づいたら，割引のシールを貼るんだよ」「シールを貼るタイミングはいつかな？」…。話し合っているうちに，早く店の人に聞いてみたい，という気持ちが高まっていきます。

4 見学活動における主体的な学び

この勢いを大切にして見学に出かけます。店の人からの説明で，「なるほど」と納得し満足しかけたところで，「他の商品の場合はどうでしょう」と投げかけます。児童らからそのような声が上がることも十分にあり得ます。さらに，牛乳で学んだ見方で他の商品を見ることによって，共通点やそれぞれの商品に特有な事柄などを発見していきます。こうして，店全体を貫く販売者の思いに気付いていきます。「工夫」という言葉をこちらから与えなくても，子どもが自ら「工夫」を発見し，自身の見方・考え方の深化につなげていくのです。

5 コンビニエンスストアと比較してみよう

対比は学びの原点と言えます。スーパーマーケットとコンビニエンスストアの比較によって，さらに深い学びへと誘います。ただし，店そのものを比較しては，わかりやす過ぎてあまり面白くありません。ここでも牛乳の登場です。

黙って同じ銘柄のパック牛乳を２本並べます。１本は見学に行ったスーパーマーケットで買ったもの，もう一方はコンビニエンスストアで買ったものです。全く同じものが並んでいるので，児童らは怪訝な表情をします。それでも「消費期限が違うのかな？」などと，これまでの学習を生かして考えようとします。

そこで，それぞれの値段を発表します。「こちらはスーパーで買いました。217 円です。こちらはコンビニで買いました。254 円です」。

児童らは驚きの声を上げます。「どうしてそんなに違うの？」「スーパーでは１円でも安くしようと努力していたでしょう。コンビニのほうはこんなに高いんだから，売れないと思うよ」…。

一方，こんな意見も出てきます。「牛乳１本だけ買うんだったら，わざわざスーパーに行かずに，高くてもコンビニで買ってしまうと思う」「スーパーの駐車場は広すぎて，車を出し入れするのに時間がかかるから，すぐに買えるコンビニのほうがいい」「コンビニは 24 時間営業だから，スーパーが閉まっていても買えるよね」…。スーパーマーケットで知った「よさ」が必ずしも絶対ではないことがわかり，揺れ動きます。

最近では，スーパーマーケットとコンビニエンスストアの間を取ったような業態の商店も登場し，店舗数を伸ばしています。消費者のニーズに合わせた多様化の進展は，常に変化し続けることを求めます。激しい社会の変化に柔軟に対応して生き抜いていくことの大切さを，児童らも目の当たりにすることになります。

生産地の様子や商店とのつながり，酪農を巡る諸問題，パッケージのデザインに込められた思い…。１本の牛乳は，まだまだ語りかけてきます。

「学びの足あと」で学習をふり返ろう！
～国際交流がさかんな東京都八王子市の学習を通して～

世田谷区立烏山北小学校　渡辺　大介

本実践は４年の東京都内の特色ある地域「新宿（地場産業が盛んな地域）」と「小笠原村（自然環境の保護・活用）」の学習後に行いました。実践を行うにあたり，意識したことや工夫したことを紹介します。

1　単元の見通しをもたせる

「特色ある地域の様子」を始めるにあたりオリエンテーションを行い，写真と地図を照らし合わせながら東京都内を俯瞰し，どのような地域があるのかを確認しました。その際，「この単元では，それぞれの地域がどのようにまちづくりを行っているかを学んでいく」ということもおさえ，大単元全体の学習の見通しがもてるようにしました。地図と一緒に提示した写真は，副読本や各市区町村，観光協会のホームページなどを参考にして地域の特徴やまちづくりの様子がつかみやすいものを選びました。

このオリエンテーションは，提示した写真のみを見て児童が都内のどの地域なのか予想する，という活動でしたので，児童らにとって「八王子市は国際交流が盛んである」という事実が捉えづらかったと思います。そこで，八王子市の写真だけでなく都内各市区町村別の外国人人口も提示した上で「八王子市は，都内でも外国人人口が多い」といった事実をつかませ，八王子市のまちづくりを学習する必然性をもたせる工夫も必要かと思います。

＊八王子市の外国人人口は，13,210 人（令和２年１月１日）で 23 区を除いた市町村の中では１位。

『東京都の統計／外国人人口』参照

2　課題を把握する段階

ここからは，学習過程に沿って工夫した点を紹介します。（単元計画は右ページに載せてあります。）

第１時では，児童が住む世田谷区と八王子市の位置関係や，八王子市の外国人人口，八王子市と友好交流都市の関係を結んでいる都市を白地図や統計資料などを用いて調べました。その後調べていきたいことや疑問をまとめ，学習問題を設定しました。オリエンテーションで見通しを立てるとともに，「地場産業がさかんな新宿区」と「自然環境を保護・活用している小笠原村」の学習と同じ流れで第１時の授業を展開したため，スムーズに学習問題を設定することができました。

第２時では，国際交流を行っている写真を提示しながらどのように交流をしているのか予想を立てました。児童から出た予想を教師が分類して「教育，文化，スポーツの三つの側面で交流していそうだ」ということをおさえ学習計画を立てました。

また，児童から「新宿区や小笠原村と同じように，八王子市でもボランティアの人たちが何か関わっているのではないか」という疑問も挙がったので国際交流の内容だけでなく，市や関係諸機関の取り組みも調べることにしました。

3　課題を追究する段階

課題を解決するために調べたことは大きく分けて，
①教育・文化・スポーツにおける国際交流の内容
②八王子市や関係諸機関の取り組み
の二つです。

①では，国際交流は双方向で行われていることを児童に捉えさせたかったので，調べる際に使う資料をＡ（八王子市から外国）とＢ（外国から八王子市）の２種類に分けて用意する工夫をしました。児童は，３時間全て同じ形式の資料を用いて調べていく中で，「どの分野においても，お互いに行き来して交流することで仲を深めている。」ということを理解することができました。

また，①②に共通して「疑問を解決するために必要な資料を自分で選ぶ」「一人で調べるか，友達と話し合いながら調べるかを自分で選ぶ」など学び方を児童らにある程度委ねるという工夫もしました。

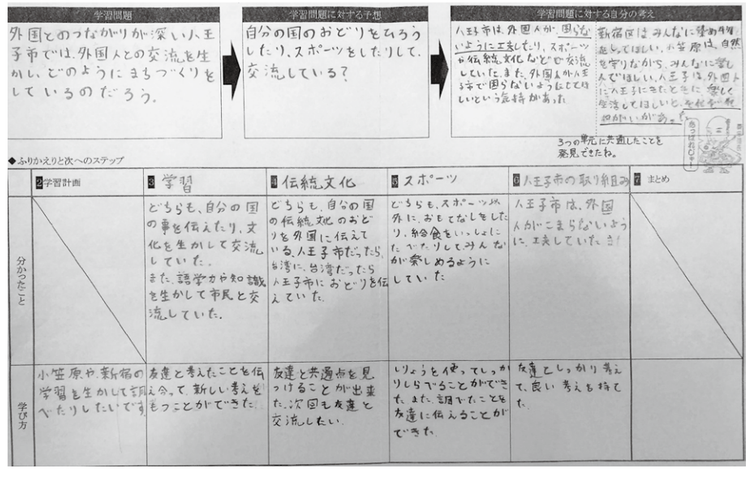
4　課題を解決する段階

調べてわかったことや毎時間の自分の学び方を「学びの足あと」というワークシートにまとめる工夫をしました。

児童にとっては，「学びの足あと」１枚を見るだけで知識の積み重ねや自身の学び方の変化など，学習過程や成長を客観的に捉えることができるメリットがありました。

学習を重ねるごとに自分の学び方について客観的にふり返ることができる児童が増え，社会科だけでなく他の教科においても主体的に学ぶ姿を見ることができました。

教師側にとっても児童の到達度や考え方，学び方の変遷がわかりやすく，指導や評価に生かしやすいというメリットがありました。



5　本実践の課題

本実践を終えて，児童の視野を各事例地のみでなく，東京都全体に広げていく工夫が必要だと感じました。例えば，大単元のまとめの時間を設け，既習事項をもとに「東京都自慢」を書くといった活動を行うことも考えられます。

単元計画（全７時間）

A：八王子市→外国
B：外国→八王子市

課題把握

【学習問題をつくり、学習計画をたてよう。】
①教育を通しての交流の写真
②文化を通しての交流の写真
③スポーツを通しての交流の写真

【八王子市はどのようなところなのだろう。】
①八王子まつりの様子
②国際交流フェスティバルの様子
③都内白地図（世田谷と八王子市の位置）
④八王子市の外国人人口の推移
⑤世界地図（八王子市友好交流都市）

学習問題

外国とのつながりが深い八王子市では、外国人との交流を生かし、どのようにまちづくりをしているのだろう。

課題追究

【外国とのつながりを深めるために八王子市では、どのようにまちづくりをしているのだろう】
①外国人向けパンフレット
②外国人のための日本語教室
③八王子国際協会の取り組み

【八王子市では、「学習」を通してどのように国際交流をしているのだろう。】
A：八王子市ジュニア国際交流フレンド
B：留学生による ゲストティーチャー

【八王子市では、「伝統文化」を通してどのように国際交流をしているのだろう。】
A：高雄ランタンフェスティバルに参加
B：八王子まつりで踊りを披露

【八王子市では、「スポーツ」を通してどのように国際交流をしているのだろう。】
A：青少年バスケットボール交流
B：スポーツクライミング世界大会

課題解決

【調べてきたことをノートにまとめ、学習問題に対する自分の考えを書こう。】

QR コードを活用した学習方法
～自ら選択する活動を設定し，主体的に取り組める ICT 活用～

足立区立足立小学校　小林　真理子

QR コードを使うと，児童がたどり着きたい情報にすぐに導くことができます。最近では，アンケートを QR コードから行うことが多くなりました。それだけではなく，教師が作成した教材を QR コードで示すこともできます。また，考えやテーマごとに QR コードを作成し，対話に導くこともできます。QR コードを活用した学習方法として，教師の問いと児童の問いを中心にした授業展開を以下に示していきます。

1　5年「日本の地形の特色」授業展開

C：児童の反応　　T：教師の問い

T：世界で最も雪の多い主要都市トップ 10 を調べてみよう。どこが一番だと思うかな。＊①

C：どこだろう。え？上位 3 都市が日本なの！（QR コードで世界で最も雪の多い主要都市トップ 10 を確認）

T：では，今度は，20，21 ページの日本地図の中から，二つの山脈を詳しく見て，その山脈の中から特徴的な山の情報も QR コードから探そう。＊②

C：飛騨山脈って，こんなにいくつもの高い山があるんだ。標高が 2800m 以上の山がたくさんある。一つの山脈にこんなに山があるんだ。

C：100 名山となっているよ。日本には，さらに山があるんだ。

T：では，日本の川はどうかな。QR コード「日本の川 - 国土交通省水管理・国土保全局」から読み取ろう。＊③

C：おじいちゃんの家の近くに最上川がある。大雨で氾濫したことがある川も載っている。

T：川はみんなの住んでいる近くにあるかな。（見方：位置や空間的な広がり）

C：私が住んでいる関東平野の利根川もある。広い川や長い川など特徴がある。

C：日本は，山や川が多いんだね。

T：山地や平地と呼ばれる地形もある。教科書の 21 ページで確認できるね。

C：教科書 20，21 ページを見ると，山や川だけではないよ。山地や平野と書いてあるところも多い。地図帳も見るとよくわかるよ。

T：教科書の 21 ページを見ながら，日本の地形の特徴を白地図にうつしてみよう。
うつしたら，スプレッドシートに気付いたことや疑問を書き込もう。＊④

C：日本の真ん中は，山脈や山地が多い。

C：赤い山は何だろう。火山って書いてある。

C：山から海に向かって川が流れている。

C：日本には，火山があるんだ。噴火するのかな。

ここで，児童対教師だけでなく，
児童どうしの対話の時間をもつと，
気付きや，疑問，調べたいことに
広がりが生まれます。
（主体的・対話的な学び）

C：関東平野は広いな。山の多いところと私たちのくらしているところ（東京）とは違っていそう。

T：みんなの疑問や調べたいことも出てきたね。調べてみて，日本の地形の特徴をまとめるとどうなるかな。ノートにまとめよう。

2　インターネットサイトへ QR コードから導く

前述の５年生の「日本の地形の特色」では，日本の山や川のインターネットサイトのリンクを QR コードにして調べ学習で活用する方法を提示しました。

インターネットサイト上のものは，QR コードにすぐに変換できます。サイト上で右クリック，または，サイトのアドレス表示の右側のQR コードの作成ボタンをクリックします。

日本の地形の特色に気付かせるために，世界で最も雪の多い主要都市トップ 10（＊①）や，特徴的な山の情報（＊②）や「日本の川 - 国土交通省水管理・国土保全局」から川について（＊③），QR コードからサイトにアクセスさせ，主体的に調べたいことを選択できるようにします。ダウンロードした QR コードは，ワークシートや地図上に貼り付けると便利です。

QR コードは，個の支援が少なく，時短で便利！

サイトのアドレスを入力するのは，児童にとって時間もかかり，全員がそのサイトに到達するには支援も必要ですが，QR コードにしておくとすぐにアクセスでき，個の支援も少なくてすみます。

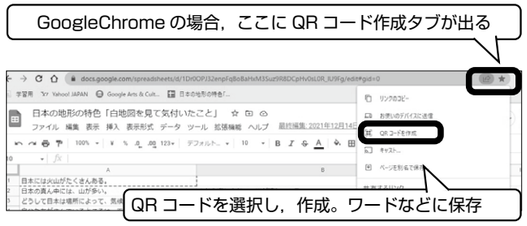
参考：

＊②日本百名山 .net | 日本百名山を図鑑形式で一覧にして紹介！（xn--eqr28qn6hnjbk15b.net）

＊③日本の川 - 国土交通省水管理・国土保全局（mlit.go.jp）

3　互いの考えやアンケートなどをテーマごとに QR コードで示す

Google のスプレッドシートなどでは，自分の考えや調べたいことを書き込み，共有することができます。テーマに沿ったスプレッドシートを作成し，QR コードにしておくと，自分で選択したテーマに意見を書き込む（＊④）ことができます。他の児童がどのような考えか，違うスプレッドシートを見にいき，確認することも可能となり，より深い学びにつながります。

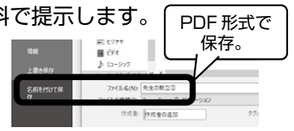


テーマにすぐに到達できるので，対話の時間が長くとれます。

4　教師の作った資料を QR コードにして活用

例えば，５年生の「わたしたちの食生活を支える食料生産」では，日本の農業と水産業に目を向けるために，先生の一週間の食卓の教材を作ります。夕食を意図的に米と魚介類に目がいくように作成したものを QR コード付き写真資料で提示します。

1．Word や Excel，PowerPoint などで作成したファイルを PDF で保存。



2．OneDrive や Google Drive などに置き，共有→ URL 取得

3．URL を QR コードに変換する→これだけ！

これにより，「先生の夕食！？」と教師の作成資料に，児童の興味・関心が高まり，意欲的に取り組めます。

QR コードは，どの資料にも素早く導くことができ，先生方が作成した資料を工夫して提示することで，学習の幅が広がります。ここでの方法は一例です。

教材研究のアイデア
～SNS を活用した情報収集と資料作成～

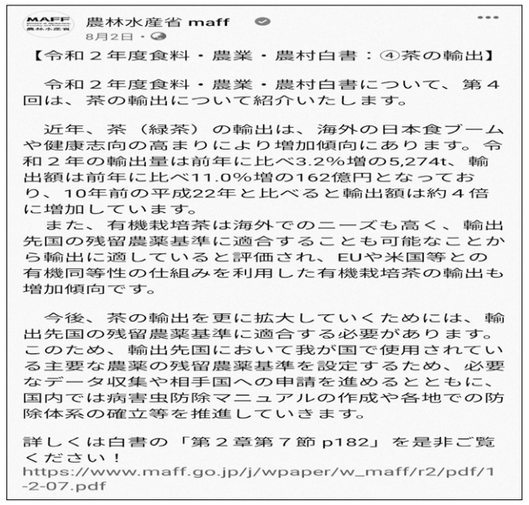
豊島区立目白小学校　生沼　夏郎

教科書には授業で使える資料が多数掲載されています。それに加えて「今」だからこその教材を使用することで，児童が疑問をもったり，学習内容への関心を高めたりすることができます。その教材探しに有効なのが SNS の活用です。普段から何気なく集まってくる情報の中に，教材となりそうな情報がたくさんあります。SNS を活用した教材探しのアイデアをいくつかご紹介します。

1　５年「これからの食料生産」の　教材づくり

５年「これからの食料生産」では，「これからの食料生産の発展」について考えます。教科書では食料自給率を上げるための取り組みなどが紹介されていますが，実際に食料自給率を上げていくことは簡単ではなく，「発展」を考えていくことは非常に難しいです。実際の児童の反応は，「国産のものを食べるようにする」というような内容が多くなるのではないでしょうか。そのため，日本の食料品の輸出拡大の取り組みを取り上げることで，未来への希望をもって考えられるようにしました。

これは，農林水産省の Facebook ページに掲載されていた記事です。日本の食文化を支えるお茶の輸出が増えていることがわかります。


農林水産省 maff
8月2日 ・

【令和２年度食料・農業・農村白書：④茶の輸出】

令和２年度食料・農業・農村白書について、第４回は、茶の輸出について紹介いたします。

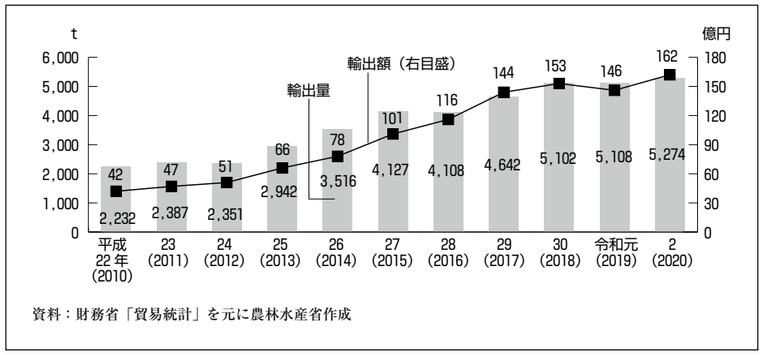
近年、茶（緑茶）の輸出は、海外の日本食ブームや健康志向の高まりにより増加傾向にあります。令和２年の輸出量は前年に比べ3.2%増の5,274t、輸出額は前年に比べ11.0%増の162億円となっており、10年前の平成22年と比べると輸出額は約４倍に増加しています。
また、有機栽培茶は海外でのニーズも高く、輸出先国の残留農薬基準に適合することも可能なことから輸出に適していると評価され、EUや米国等との有機同等性の仕組みを利用した有機栽培茶の輸出も増加傾向です。

今後、茶の輸出を更に拡大していくためには、輸出先国の残留農薬基準に適合する必要があります。このため、輸出先国において我が国で使用されている主要な農薬の残留農薬基準を設定するため、必要なデータ収集や相手国への申請を進めるとともに、国内では病害虫防除マニュアルの作成や各地での防除体系の確立等を推進していきます。

詳しくは白書の「第２章第７節 p182」を是非ご覧ください！
https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/r2/pdf/1-2-07.pdf

単元の導入で提示して児童が話し合うことで，「他にも輸出が増えている品目はあるのかな」や「輸出全体はどうなっているのだろう」などの疑問が生まれ，食料の輸出入についての追究を見通すことにつながっていきます。

授業をする先生も， SNS の情報が教材づくりの入り口になって，教材収集を進めていくことにつなげていくことができます。実際に農林水産省の SNS ページを見てみると，ホームページで検索する以上に，写真や資料が端的に表されていて，幅広い情報に手軽に触れることができます。



資料：財務省「貿易統計」を元に農林水産省作成

他にも国産米やかんきつ類など，たくさんの種類の日本を代表する農産物について，輸出拡大に向けた取り組みが紹介されています。食料生産の単元で扱った事例と関連付けて教材化すれば，児童はさらに意欲的に学習を進め，これからの食料生産の発展について，既習事項を生かしながら具体的に考えることができます。

もちろん，５年の食料生産では，米の生産，水産業の教材づくりの中でも，関係省庁の SNS ページから情報を収集することで，タイムリーな情報や最新の情報に触れることができます。

2　３・４年での教材探し

３・４年では，教科書の資料だけでなく，地域の様子について情報を集めて教材づくりをすることが多くあると思います。そこでも地域や観光協会の SNS から情報を収集することが有効です。

市区町村の様子や都道府県の様子の学習では，行政の公式アカウントや，観光協会のアカウントの情報が活用できます。

東京都の多摩地域と島しょ地域では多様な自然が見られます。Instagram「tamashima.tokyo.jp」のアカウントにはその姿がたくさんアップされていて，都市部のビルやマンションが建ち並ぶ地域のイメージをもつ児童にとっては，かなり意外なものとして映ります。緑の豊かさ，海の青さを見ることで，自分たちの知っている東京都の姿と異なることから，東京都の地理的環境についての問いにつながっていきます。

行政の公式アカウントでは，地域の様子とともに，行政による住民サービスの内容や，防災についての情報がアップされている場合があります。これらの情報を生かすことで，１年間の学習を見通して，有効な教材を作成することができます。

警察や消防の学習でも，公式アカウントの情報が有効です。安全を守るために普段から行っている訓練の様子が YouTube で見られることもあります。見学が難しい場合でも，バーチャル見学の資料として活用できます。また，住民への防火や災害への備えの呼びかけをする手段として活用されていることは，この発信自体が防災の取り組みとしての資料になります。

3　５・６年での教材探し

５年では我が国の国土について学習するため，Twitter で「国土地理院」や「気象庁防災情報」などのアカウントが発信している情報が有効です。これまでに我が国で起きてきた過去の災害について知ることができます。

また，上の写真のように「地理教育支援」のページもあり，地図教材づくりにも役立ちます。

前述した食料生産やその発展を考える際の資料以外にも，様々な教材につながる内容があります。農林水産省の取り組みでは，新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う給食の停止によって，消費が一段と減ってしまった乳製品を生産する酪農家を守るためのキャンペーンについて発信されていました。これは第６学年の「我が国の政治の働き」で，国が様々な立場の国民の生活を守る工夫をしていることとして教材化することが考えられます。

農林水産省 maff
12月20日 18:08 ・

【EVERYDAY MILK　＋αの牛乳消費を！「職場で牛乳飲モ～♪」】

酪農は、長引くコロナ禍による牛乳・乳製品の消費減少と乳製品の過剰在庫から、関係各所であらゆる対策に取り組んでいます。
北海道農政事務所釧路地域拠点では、北海道の酪農地帯である釧路管内の ＪＡなどで構成する「釧路地区酪農対策協議会」主催のキャンペーン「EVERYDAY MILK」に参加しています。また、牛乳・乳製品などを購入し、酪農をはじめとした管内の基幹産業を応援する「食べて応援」に取り組んできました。今般の状況を捉え、牛乳の家庭消費には限界があることから、普段牛乳をあまり飲んでいない職場で牛乳を飲むことで＋αの牛乳消費に繋がると考え、微力ではありますが週１回の「職場で牛乳飲モ～♪」を企画しました。この取組は、令和３年12月８日からスタートし、牛乳の不需要期とされる令和４年３月末まで毎週続けていきます。
皆さんも、毎朝飲むコーヒーに牛乳を入れたり、運動後や夜寝る前に一杯の牛乳を飲んだり、＋αの牛乳を楽しんでみませんか。

日頃から社会科の授業づくりにつながる情報を収集して，児童の追究意欲を高める教材づくりにつなげてみませんか。

一人１台端末（タブレット）を活用した学習活動
～３年「店で働く人びとの仕事」を例として～

葛飾区小学校　教諭

GIGA スクール構想により各学校に一人１台端末（タブレット）が整備されました。そこで，３年生「店で働く人びとの仕事」を例として，３年生でもできるタブレットの活用アイデアを紹介します。

「店で働く人々の仕事」学習展開例

導入	調べ活動	まとめ
買い物の様子を捉える①② ➡	見学・調査③ ➡	販売の仕事の工夫をまとめる

活用例：「導入」①買い物地図作り　②買い物調べ
活用例：「調べ活動」③店内図の読み取り

1　導入①「買い物地図を作ろう！」

この単元の導入では，家の人がよく行く店や，よく買う品物を調べることが多いと思います。１週間くらい買い物調べをした後，買い物調べの結果を発表し，地図やグラフにまとめていきます。これまで店がある場所を地図にまとめるときは，教師が校区の拡大地図を用意し，そこに店名を書き込んだり写真やシールを貼ったりしてきましたが，下記のように設定しておけば，タブレットで店の写真を撮影すると自動的に地図上に写真を表示することができます。

操作方法（iPad の場合）
①位置情報を ON（※ 1）にし，タブレットで店の外観を撮影する（人物の写り込みに注意！）
②写真アプリにアルバムを作成し，撮影した写真をアルバムに入れる
③写真アプリ→反映したいアルバム→マップ表示

（※ 1）事前に「カメラ」アプリでの位置情報の利用を許可しておく必要があります。市区町村や学校ごとの利用ルールを事前にご確認ください。

このように地図上の正確な位置に店の写真を表示することにより，児童は自分たちが住む地域にはたくさんの店があることを捉えることができます。また，店の立地条件（駅からの距離はどうか，大きな道路に面しているかなど）と店の種類（スーパーマーケット，コンビニエンスストア，個人商店など）の関連に着目し，空間的な見方・考え方を働かせて家の人の買い物の特徴を考えることができます。

2　導入②「買い物調べの結果をまとめよう！」

買い物調べの結果をまとめるときは，教師が模造紙に表を書いたものを用意したり種類ごとに色分けしたシールを用意したりと，事前の準備が必要でした。しかしタブレットを活用すれば，その必要はありません。各自治体によって使われている端末は異なりますが，「Google フォーム」のようなアンケート機能を使えば，買い物調べの結果をすぐにグラフ化することができます。

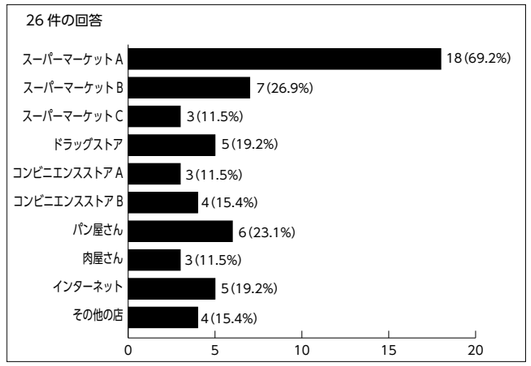
このようにタブレットを活用すると，時間をかけずに買い物調べの結果をグラフに整理することができます。作成したグラフを一人ひとりのタブレットに配付することによって，グラフを読み取る活動や気付いたことを話し合う時間を十分に確保することができます。そして，前時に作成した「買い物地図」と結び付けながら，買い物調べの結果からわかったことをもとに，利用者が多い店に着目してその理由を考えさせていきます。「たくさん店があるのに，なぜスーパーマーケットに行く人が多いのだろう」という問題意識をもたせ，「スーパーマーケットはどんな工夫をしているのだろう」という学習問題につなげていきます。

なお，買い物調べを行う際は，個人情報や地域のお店の方々に配慮し，よく利用するお店や買った品物の種類などのおよその買い物の傾向がわかる統計資料として活用してください。また，紙の地図や地図帳を活用して，地図の約束や地図帳の使い方などの知識・技能を育てていくことも大切です。地図帳に慣れ親しむ機会も意図的に設けるようにしてください。

家の人たちが買い物に行った店
調べた日　９月 14 日(月)～ 20(日)

- □ スーパーマーケット A
- □ スーパーマーケット B
- □ スーパーマーケット C
- □ ドラッグストア
- □ コンビニエンスストア A
- □ コンビニエンスストア B
- □ パン屋さん
- □ 肉屋さん
- □ インターネット
- □ その他の店

アンケート例



アンケート結果の例

3　調べ活動③「店内図を読み取ろう！」

学習問題を設定した後，スーパーマーケットの工夫について予想する学習活動では，教科書に掲載されている店内図のイラストを使うと効果的です。これまでの学習では，教師は店内図を事前に印刷しておき，児童は配付された店内図をノートに貼って，気付いたことや予想したことを書き込むことが多かったと思います。これもタブレットの活用が効果的です。デジタル教科書や日本文教出版のサイトに掲載されている QR コードを活用し，店内図の資料を「Google スライド」や「jamboard」などを使って児童に配付します。デジタル資料は，詳しく見たいところを拡大することができるので，人の動きや服装，品物の並べ方，通路の様子など，細かいところにも着目しやすくなります。店の様子を読み取った後，気付いたことや予想をタブレット上に書き込んでいきます。

この学習活動は個人でもできますが，タブレットを使うと共同編集が可能となるので，グループで取り組むこともできます。また，友達が書き込んだものを見ることも可能なので，自分一人では見つけられなかったことに気付いたり，自分の予想とは異なる考えに触れたりすることができます。タブレット上でも自分の考えを広げ深めることができるため，積極的に活用することで教師も児童も学びの可能性が広がっていくと思います。

タブレットの例

白黒写真をカラー化した写真資料の活用
～昔と今の「つながり」を感じる社会科学習～

葛飾区小学校　教諭

1 写真資料のよさ

社会科の学習では，「資料が命」と言っても過言ではないくらい，資料選びが重要です。社会科の資料には，実物，映像，写真，絵図，統計，文書など様々なものがあります。その中でも写真は，景観や歴史的な出来事，人びとの暮らしの様子を捉えるときに，非常に効果的な資料です。しかし，昔（明治・大正・昭和初期）に撮影された白黒写真は，何が写っているのかわかりにくく，細部に目を向けることが難しいことがあります。また児童にとって，白黒写真＝かなり昔というイメージがあるため，自分とのつながりを感じにくく，心理的な距離を縮めることが難しいという課題があります。そこで，このような課題を解決するために，白黒写真をカラー化して活用するアイデアを紹介したいと思います。

2 白黒写真をカラー化するには

近年，AI を活用して，白黒フィルム映像や白黒写真をカラー化したものがテレビや書籍等で取り上げられることが多くなりました。最近では，パソコンやスマートフォン上から，AI を使って白黒写真を一瞬で鮮やかなカラー写真にしてくれるウェブツールが続々登場しており，誰でも手軽に白黒写真をカラー化できます。操作方法は，カラー化したい白黒写真を選んで着色等のボタンを押すだけです。パソコン等で検索すると，無料で利用できるツールがたくさん見つかりますので，安全性や注意事項を確認の上，活用してみてください。なお，カラー化した写真を授業で提示する際は，本当の色ではなく，AI が着色したものであることを児童と確認する必要があります。

3 ３年「市の様子の移り変わり」

この単元では，交通や公共施設，土地利用や人口，生活の道具などの市の様子の変化やそれらに伴う人々の生活の変化について学習します。単元の導入では，昔と今の違いを明確に捉えるために，駅周辺の様子など新旧の景観写真（昔の写真＝白黒，今の写真＝カラー）を比較し，気が付いたことを話し合う活動を行うことが多いと思います。そこで，昔の白黒写真をカラー化して児童に提示します。

〈授業での活用法のアイデア〉

①昔の〇〇駅と周りの様子（白黒写真をカラー化したもの）と今の〇〇駅と周りの様子（カラー写真）の２枚の写真を比較する。

②気付いたことを話し合う。

（昔）駅のまわりに，田んぼが広がっているね。

（昔）道路沿いには家が多く，大きな木もある。

（昔）自転車にのっている人がいる。

（今）駅のまわりに，高い建物ができた。

（今）道路が広がり，バスや車が走っている。

このように，白黒写真をカラー化することで，駅周辺の田畑の広がりや町並みの様子などが鮮明になり，景観情報が読み取りやすくなります。また，人びとの様子にも着目しやすくなり，自分たちが住む地域の昔を身近に感じることができるようになります。「調べる段階」でも，教師のねらいや意図に合わせて，カラー化した写真資料を活用すると効果的です。

4 ４年「自然災害から人々を守る活動」

この単元では，過去に県内で発生した災害を取り上げて，県庁や市役所などの関係機関が相互に連携したり地域の人々と協力したりして，自然災害から人々の安全を守るために行っている活動について学習します。自然災害が大きな被害を与えることや，災害への備えや対処が必要であることを実感させるために，単元の導入で，白黒写真をカラー化した写真資料を活用するとよいと思います。日本文教出版の教科書では，東京都で起こった災害の白黒写真が掲載されており，この中でも，水害の白黒写真をカラー化すると，被害の大きさや人々の生活への影響を捉えやすくなります。他の地域で起こった自然災害でも，白黒写真をカラー化することにより，自然災害や災害への備えに関心をもたせることにつながります。

令和２年（2020 年）度版小学校社会科教科書４年 p.70 ③掲載

5 ６年「アジア・太平洋に広がる戦争」

2020年に出版された『ＡＩとカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争』（光文社新書）は，戦争をテーマとした写真集として大きな反響を呼びました。この本は，東京大学学生の庭田杏珠さんと東京大学大学院教授の渡邉英徳先生が，戦前・戦後の白黒写真を ＡＩ で自動カラー化したのち，写真提供者との対話や資料，SNS で寄せられた考証を踏まえて色補正した写真を収録したものです。また渡邉先生は，SNS でもカラー化した写真を公開しています。

戦争単元においても，カラー化された写真資料を活用することで，戦争があったことや人びとの暮らしの様子について，実感を伴って捉えることができます。

〈授業での活用法のアイデア〉

【 ①原爆写真のカラー化 】次の写真は，広島に落とされた原爆の様子です。QR コードを読み取ると，カラー化された写真が表示されます。白黒写真とカラー化された写真を比べると，空の青さとオレンジ色のきのこ雲との対比から，それまでの戦争で使われた爆弾の中で，最も強いものだったことを感じ取ることができます。また，きのこ雲の下では，熱線と爆風により一瞬のうちに建物が破壊され，多くの人が亡くなりました。カラー化された写真から，人類がこれまでに経験したことのない戦争の惨状が想像できると思います。

出典：『AI とカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争』

【 ②家族写真のカラー化 】次の写真は，1935年に広島市で撮影された写真です。家族，親戚でお花見をしています。カラー化した写真からは，みな楽しそうであることが伝わってきます。この写真を撮影してから10年後，広島に投下された原爆で生き残ったのは，この中でたった一人でした。この事実から，被害の大きさと，幸せな日常生活が一瞬で奪われたことが実感できると思います。

出典：『AI とカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争』

6 写真をカラー化する「よさ」とは

３年，４年，6年の事例のように，カラー化された写真を資料として活用することで，昔の出来事を「自分ごと」として捉えることができます。また，写真資料を見ながら撮影当時の様子や人々の思いについて児童同士の「対話」も生まれ，社会的事象と児童との心理的な距離も縮まることが期待できます。是非，ご活用ください。

教科書を活用した教材研究の秘訣！
～５年「低地に住む岐阜県海津市の人びとのくらし」を例に～

成城学園初等学校　宮田　諭志

「教科書の〇ページに載っている資料を見てみるとわかりそう」「この資料からもわかりそうだよ」私たちが行う授業の中で，問題解決の過程で教科書を活用する児童の姿はどれだけ見られるでしょうか。教師になりたてのころ，「教科書“を”学ぶのではなく，教科書“で”学ぶ」という言葉を多くの先輩からいただいた覚えがあります。教科書を問題解決の過程で活用する授業を目指すために，どのような教材研究をすることがよいのか，その一例を示します。

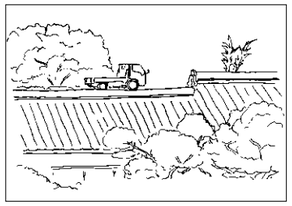
1　教科書からわかる「事実」の把握

５年生「低地に住む岐阜県海津市の人びとのくらし」を事例に，教科書に示された資料と資料からわかる「事実」を一覧に整理します。その際，教科書会社から発行されている教師用指導書の朱書編や研究編を活用すると，より詳細な情報を獲得することができます。教科書に示される「事実」は，「問い」に対する予想を証明したり覆したりする根拠であり，同時に新たな「問い」を見出す足場ともなります。これらの「事実」に結び付く「問い」を書き出してみると，教科書を活用することで解決することができる問題が見えてきます。

2　「問い」を作る教材探し

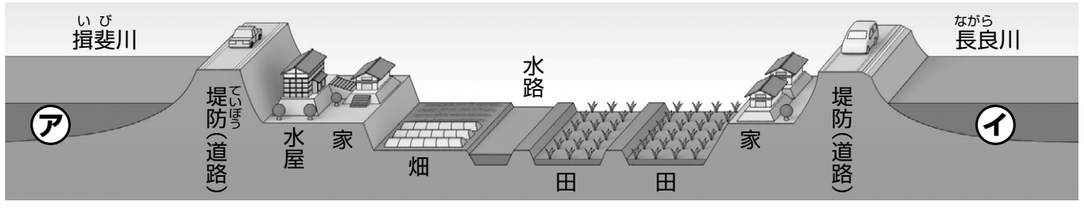
では，どのような資料を提示することで，教科書を活用して解決することのできる「問い」をもたせることができるのでしょうか。

この単元は，多くの場合児童の生活経験から遠い事象を扱うことになります。よって，学習意欲を喚起するには，児童の経験や認識をくつがえすような“意外性”のある導入資料が効果的です。



上のイラストは，NHK for School「輪中～低い土地のくらし岐阜県海津市～」のワンシーンをもとにスケッチしたものです。まるでトラックが屋根の上を走行しているかのように見えます。このイラストからは，「家の向こう側はどうなっているのだろう」「橋になっているんじゃないかな」「高速道路になっているのかもしれないよ」等，疑問や予想が集まってくると思われます。ここで小学社会（日本文教出版）５年 47 ページの資料③輪中の断面図（下図）を提示すると，トラックは堤防の上を走っていたことがわかります。資料からは家屋が川の水位よりも低い位置に建てられていること，つまりこの地域が海抜０メートルよりも低い位置にあるという事実も見えてきます。「どんな心配があるだろう」等の追発問をすることも，児童の思考を促す手立てとなります。

近年，様々な自然災害が報道されているので，児童らでも水害等はすぐに思い浮かぶはずです。目線を人の暮らしに向けていくには，この地域で 33,173 人（令和３年８月１日現在計）の方が生活をしているという事実や，堤防付近にある小学校の写真などを提示することが効果的だと考えます。「この地域では実際に水害が起きているのか」「何か家に工夫はあるのか」「田畑では何がつくられているのか」等，現地の人々の生活に関わるような疑問をしっかりとおさえてあげることで，児童がすすんで教科書から事実を読み取る姿が現れてくるでしょう。



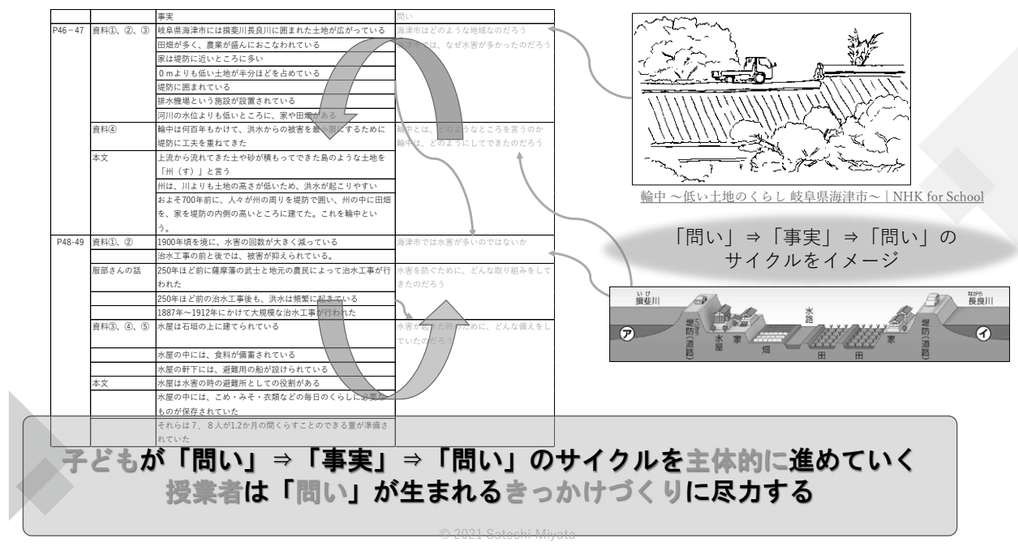
令和２年（2020 年）度版小学校社会科教科書５年 p.47 ③掲載

3　教科書活用が資料活用能力を育む

社会科における資料活用について，学習指導要領解説では「社会的事象等について調べまとめる技能」に位置付けられています。具体的には，問題解決に必要な社会的事象に関する情報を集める技能，収集した情報を社会的な見方・考え方によって読み取る技能，読み取った情報を問題解決に沿ってまとめる技能であり，児童に身に付くようにくり返し指導することが大切となります。

教科書からわかる「事実」を把握しておくと，児童にどんな「問い」を抱かせたいのか，その「問い」をもたせるためにどんな導入資料があるとよいのかと，ある種逆算的に授業のイメージが具体化されていくのではないでしょうか。児童の立場で考えてみると，教科書を活用することで“わかる”経験を積むことができます。すると，次第に教師から言い出さずとも，子どもが自然と教科書を開いて「教科書の〇ページに資料が載っているよ」という声が聞こえてくる授業が展開されるようになっていきます。教科書に掲載されている事例とそれに関係する資料は，多くの方々が協働し長い時間をかけて作られてきたものばかり。使わない手はありません。まずは１単元，じっくりと教科書を読んでみてはいかがでしょうか。

【参考・引用資料】
・輪中～低い土地のくらし岐阜県海津市～｜NHK for School（https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?d as_id=D0005310889_00000）
・授業のスキル２資料活用の指導｜学び！と社会｜まなびと｜ Web マガジン｜日本文教出版）



既習を生かした学び～食料生産（稲作と水産業）～

板橋区立下赤塚小学校　桑島　孝博

5年生の食料生産の学習について多くの学校では，「稲作」と「水産業」を取り上げます。この「稲作」と「水産業」の学習には共通点が多いです。例えば，様々な立場の人が協力している点や，自然環境を守ったり生かしたりしている点，食料生産に関わる課題などが共通しています。そこで，「水産業」の学習では既習の「稲作」の学習を大いに生かして学習をすすめることができます。

1 教師が既習を生かして小単元をデザインする

既習を生かした学びにするためには，教師が二つの小単元の類似性を下記のように把握しておく必要があります。

米作りのさかんな地域

学習問題（案）

・米作りがさかんな〇〇の人たちは，米作りをどのように行いそのお米を消費者へ届けているのだろう。

調べること

・米作りの仕方や工夫

・協力関係（農業試験場，農協など）

・輸送の工夫　・米作りの課題や新たな取り組み

水産業のさかんな地域

学習問題

・水産業がさかんな〇〇の人たちは，どのように水産物を確保し，消費者に届けているのだろう。

調べること

・漁の仕方や漁の工夫

・協力関係（漁協や水産加工会社など）

・輸送の工夫　・水産業の課題や新たな取り組み

2 児童が既習を生かして学習計画を立てる

学習問題について予想し，学習計画を立てる場面では既習が大いに生かされます。学習問題「水産業がさかんな〇〇の人たちは，どのように水産物を確保し，消費者に届けているのだろう」について児童が予想する場面の授業展開を以下に示していきます。

C：児童の反応　　T：教師の問い

T：学習問題について予想しましょう。

C：漁師だけでなく協力している人がいると思います。

T：どうしてそう思ったのですか？

C：米作りを学習したときも農家に協力している人がいたからです。

T：なるほど。前の学習を生かして予想しているのがいいですね。

C：それなら，輸送にも工夫があると思う。新しい取り組みもしていると思う。機械を使っていると思う。

T：それでは，みんなの予想を整理して学習計画を立てましょう。

児童は，予想する場面で既習や自分の生活経験などを自然に生かした発言をします。既習を生かして考えている児童に対して教師が意図的に「どうしてそう思ったのですか？」と問い返したり，「前の学習を生かして予想しているのですね」と価値付けたりすることが大切です。授業に参加している他の児童も，既習を生かして予想すればよいと気付くことができ，多様な既習を生かした予想を出すことができます。

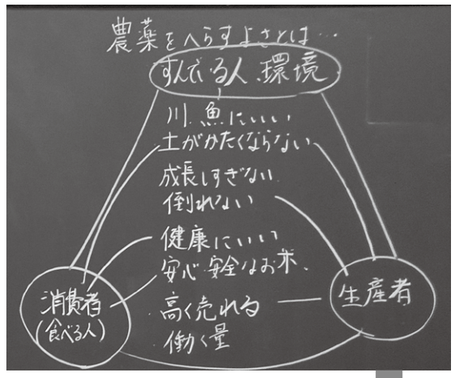
3 既習を生かして多角的に考える

「稲作」と「水産業」の学習はどちらも社会的事象の意味を多角的に考えることが大切です。

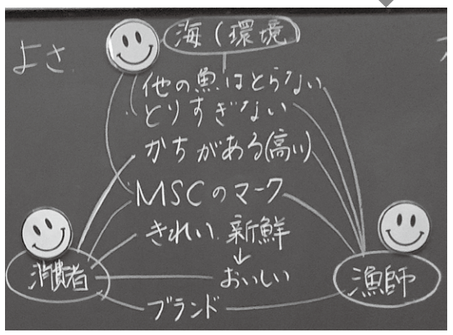
例えば，「稲作」では品種改良を行う目的について学習します。その際，児童は「生産者はお米を育てやすくなる。たくさんのお米を生産することができる。消費者は農薬が使われる量が減って安心して食べることができる。農薬を使う量が減れば，自然環境にもよい」と社会的事象の意味を多角的・多面的に考えます。生産者，消費者，自然環境によいから「三方よし」といった言葉にまとめておくことも有効です。

「水産業」の学習でも，漁法のよさを「生産者，消費者の立場や自然環境の面」から多角的に考える場面があります。板書を以下の写真のように稲作と水産業の学習で同じように構成することで，水産業も稲作と同様に「三方よし」になっていることに気付くことができます。

【稲作の学習の板書】



【水産業の学習の板書】



4 既習を生かした関係図づくり

「稲作」と「水産業」の学習はどちらも社会的事象の相互関係を理解することが大切です。

例えば，学習問題に対する考えをまとめる場面ではどちらの学習も関係図にまとめることができます。学習したことを関係図にまとめることで，様々な立場の人がどのようにつながっているか捉えることができます。くり返し関係図を作成することで，児童も関係図を作りやすくなります。また，この関係図をもとに学習問題に対する自分の考えを友達と説明し合うことも大切です。

【関係図を作成する手順の例】

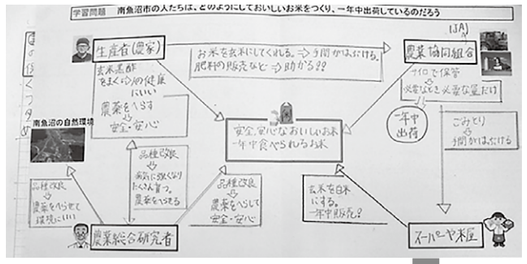
1，どのような立場の人が関わっていたか書き出す。

2，関係のある立場の人どうしを線でつなぐ。

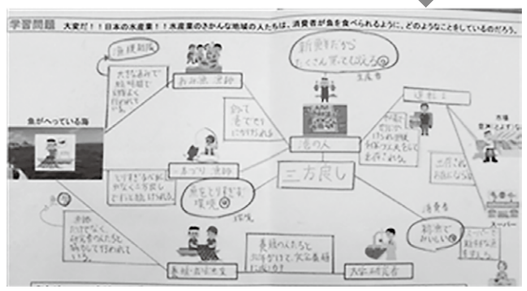
3，線はどのような意味があるか考え，自分の言葉でコメントを入れる。

4，関係図をもとに，学習問題に対する考えを文章にまとめたり，友達に説明したりする。

【稲作の学習の関係図】



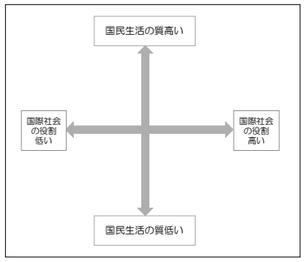
【水産業の学習の関係図】



思考を見える化した学習展開
～ポジショニングマップ・先行オーガナイザを活用して～

文京区立昭和小学校　寺本　大一

単元「新しい日本，平和な日本へ」は，学習指導要領に「日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦，日本国憲法の制定，オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに，戦後我が国は民主的な国家として出発し，国民生活が向上し，国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解すること」と示されています。つまり，戦後の日本の状況から社会的事象を経て，国民生活が向上したこと，国際社会の中で重要な役割を果たしていることを理解させたいです。そこで，社会的事象を経た日本の状況について思考を見える化するポジショニングマップを活用することで捉えられるようにします。



ポジショニングマップ

1 思考を見える化するポジショニングマップとは？

上記で示した「国民生活の向上」と「国際社会の中で重要な役割を果たしてきた」を捉えられるように，ポジショニングマップの縦軸に「国民生活の質の高低」，横軸に「国際社会の役割の高低」を位置付け，日本の状況を可視化できるようにしました。また，毎時授業でポジションを可視化していくことで日本の状況の変化を捉えられることができるでしょう。

2 ポジショニングマップの活用法

社会的事象を調べた後，各自が日本の状況はどの位置にあるのかポジションを打ち，見える化します。ポジションを打つことで，資料をもとに根拠を示しながら，より自分の考えを広げたり深めたりすることができます。例えば図１のように①戦後直後の日本の状況を見える化し，その根拠を具体的資料や記述で明らかにしていきます。また，②日本国憲法制定時の日本，③オリンピック開催時の日本，のように見える化することで，日本の状況の変化を捉えることにつなげられます。

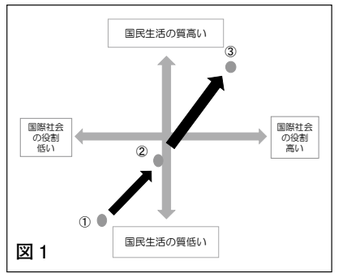


図１

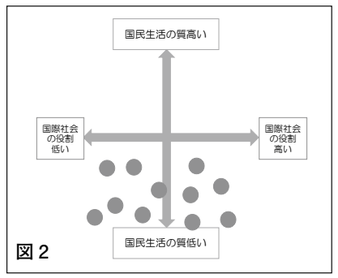


図２

図２は，各自打ったポジションを全体で共有したものです。ポジショニングマップを拡大コピーし，各自のポジションと同じ場所に名前を書いたシールを貼ります。そうすることで，学級全員のポジションを見える化することができ，対話的活動を促し，より考えを広げたり深めたりすることにつなげられます。

3 歴史学習を生かした発展的な学習展開

「現在の日本のポジションはどこになるのだろう」や「未来の日本のポジションはどこになるのだろう」などの問いをもたせ，歴史学習を生かした発展的な学習を取り扱うことも考えらます。その場合は，図３の①のように，現在や未来のポジションを低い位置に設定する児童も考えられ，議論が活性化するのではないでしょうか。このように，思考を見える化することで，学びを深めていきます。

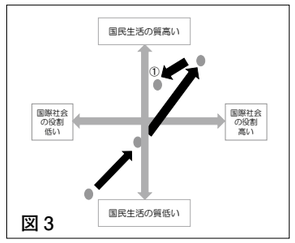


図３

単元「情報を活用して発展する産業」では，大量の情報を活用することで過去から現在の産業の発展を捉え，それに伴って，国民の生活が向上していることを捉えることが学習指導要領に示されています。これらのポイントを捉えたものが，図４のモデル図です。

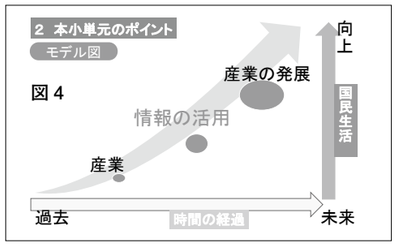


図４

4 見えづらい情報の流れをシステム図で可視化

本小単元で扱う情報や情報の流れは，児童らにとってとてもわかりづらいものです。また，情報が産業側（生産者）と消費者側（わたしたち）とをどのようにつないでいるのかも見えづらいし，わかりづらいです。そのことから，児童らが見通しをもって学習に取り組めるようにしたり，学ばせたい知識を整理したりできるような手だてが必要です。そこで，児童らの学びの手助けとなるように先行オーガナイザの考えを活用します。先行オーガナイザとは，学習内容の理解を促すために，あらかじめ提供する枠組みのことを示します。その枠組みを図５の情報システム図として活用し学習することで，子どもの思考の手助けができるのではないでしょうか。

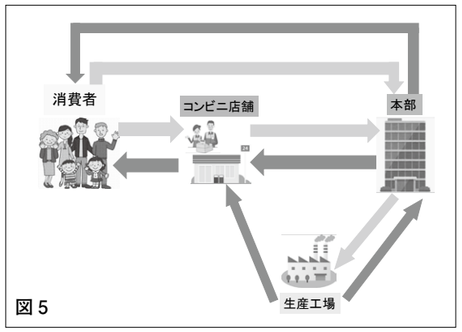


図５

5 情報システム図の活用例

情報システム図を活用することで，情報の種類，情報の流れ，情報の活用などを捉えさせます。例えば，コンビニでおにぎりとお茶を買います。その際，消費者が購入した商品，商品の組み合わせ，日時，場所などの情報を店舗は得られます。それら各店舗で得た情報を本部が集め，分析・情報活用することで新サービスや新たな商品開発に役立てて消費者に提供する，という情報を活用したサイクルがあります。このような情報の流れを，情報システム図をもとに考えていくことで学習問題を立てたり予想を考えたりする際の手助けになります。また，調べる場面において，資料をもとに調べたことを図に表現していくことで，図６のように「どのように情報を集めているのか」「どのように情報を活用しているのか」について見えづらい情報を可視化することで気が付くことが出てきます。

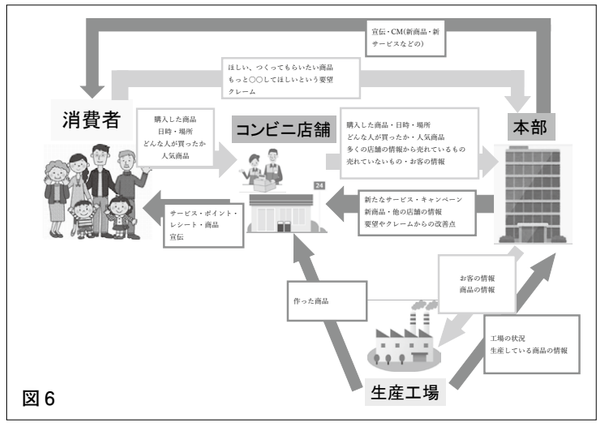


図６

6 消費者と産業側（生産者）の立場から多角的に考える

情報システム図を活用することで情報の流れが可視化され，消費者と産業側の両方の立場の情報・つながりを明確にします。さらに，情報システム図をもとに消費者と産業側の両方の立場から情報活用のメリットについて考えます。産業側としては，消費者などの情報を活用することで産業を発展し続けることができます。消費者側としては，産業の発展に伴って消費者の生活の利便性が向上していることを捉えられます。

学習展開プラス

1 板橋区立下赤塚小学校　桑島　孝博
2 文京区立昭和小学校　寺本　大一

1 歴史を学ぶ意味について考える

学習指導要領社会編の第６学年の内容（2）の取り扱いで，歴史学習を通して歴史を学ぶ意味を考えるようにすることが示されています。これまでも社会科の歴史学習の最後に，歴史を学ぶ意味について考える実践がたくさん行われてきました。歴史学習が全て終わった後に，歴史を学んだ意味を考えることも有効ですが，政治先習を生かしたり，いくつかの人物が行ったことやそれぞれの時代の文化を比較したりしながら，歴史を学ぶ意味を考えることも可能だと考えます。

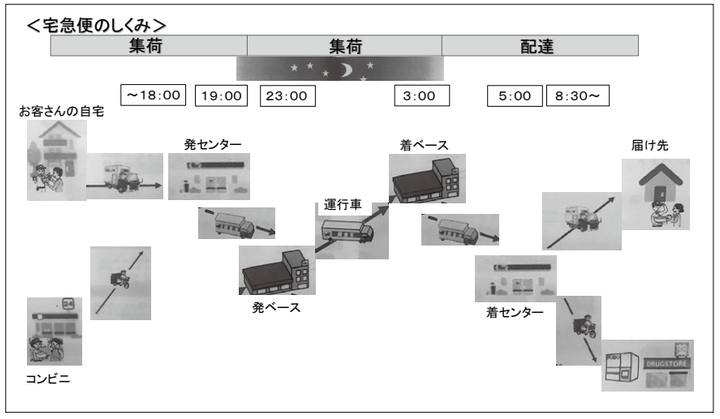
歴史学習の多くは政治に関係する内容です。そこで，今の政治と学習した時代の政治を比較したり，いくつかの時代の政治を行った人物を比較したりする活動も考えられます。このような活動を行うことで児童は，歴史上の人物が行ったことには共通点があることに気付くことができるでしょう。例えば共通点として「政治を行った人は，税やきまりをつくった。外国と関わった」等と考えることでしょう。これらの共通点に気付いた児童に教師がなぜ税やきまりをつくった人物や，外国と関わった人物についてくり返し学習するのか問い返すことで，児童は歴史を学ぶ意味を考えることができるのではないでしょうか。

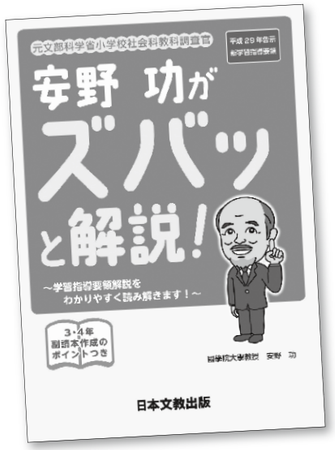
私の学級の児童は，いくつかの時代の政治を行った人物を比較する活動をくり返したことから，「これまでの外国との関係を学ぶことで，これから外国と仲良くしていくことができる」や「現在は国民主権だ。これまでのきまりや税を学ぶことで，自分たちがこれから誰に政治を任せたらいいか考えることができる」などと記述していました。

2 先行オーガナイザの有効性について考える

先行オーガナイザとは，アメリカの心理学者であるオーズベルによって提唱された教授法であり，学ばせたい知識を整理したり対象付けたりする目的で，当該知識に先立ち提供する枠組みのことです。例えば，本の目次，プレゼンの前に配られるレジュメなども先行オーガナイザの一つです。P30・31 で紹介した先行オーガナイザは，図式的オーガナイザという種類で，これから学習する内容の要素がどのように関連しているのか，シンプルに整理して視覚的に表したものです。

先行オーガナイザを活用するよさは，複雑で理解しづらい学習内容でも，先に枠組みを提示することで学習の理解度を効率的に高めることができます。また，汎用性も高いと考えます。例えば，左図は，P31 と同じ小単元である「情報を活用して発展する産業」の運輸業における情報システム図です。他にも先行オーガナイザの考え方を応用していけば学習を有効に進めることができるでしょう。





平成29年告示新学習指導要領
元文部科学省小学校社会科教科調査官
好評発売中

安野 功がズバッと解説！
～学習指導要領解説をわかりやすく読み解きます！～

本書の主な内容
第1章　新しい時代の社会科と教科書の方向性
第2章　新学習指導要領を読み解く“五つのキーワード”
第3章　新･旧の対比で見えてくる“社会科授業づくりの新しい方向性”
第4章　新学習指導要領の実践課題Q&A

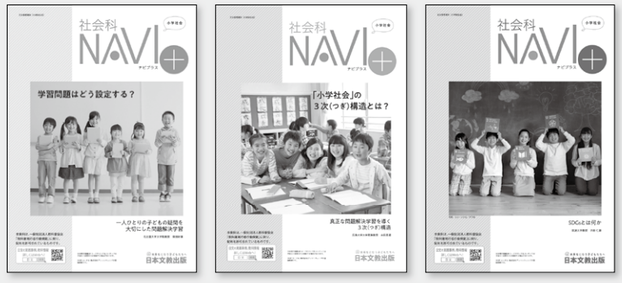
著者 國學院大學教授　安野 功
定価 1,760円（本体1,600円+税10%）
B5判　112頁

授業力アップを目指す先生のための
社会科のABC

社会科授業の基礎･基本を絵や図を駆使して
丁寧にわかりやすく解説!
授業力アップを目指す先生のための必読書!

著者 國學院大學教授　安野 功

社会科 NAVI プラス



「問題解決学習とは？」「SDGsと社会科のかかわりとは？」といった疑問や、ICTを活用した新たな学びについて丁寧に解説しています。

社会科授業力アップへの道 アイデア集

日文 教授用資料

令和 4 年(2022 年)12 月 1 日発行

編集・発行人　佐々木秀樹

発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33597

日本文教出版 株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171

東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618

九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938

東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261

北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690